

HITACHI

日立ルームエアコン システムマルチ 室内ユニット据付説明書



型式

RAMD-28CS RAMD-40CS



家庭用エアコンにはGWP(地球温暖化係数)が2090のフロン類(R410A)が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄等にあたってはフロン類の回収が必要です。

- 据付工事前にお読みになり正しく据え付けてください。
- お客さまに操作方法を取扱説明書でよく説明してください。
- この製品は日本国内家庭用です。電源電圧や電源周波数の異なる海外では使用できません。

据付情報 •接続ケーブルが2芯 → 3芯に変更になりました

据付工事に必要な工具 (◎印はR410A専用工具)

- ⊕⊖ドライバー
- 巻き尺
- ナイフ
- ペンチ
- パイプカッター
- 六角棒スパナ(呼4)
- Pカッター
- ホールコアドリル(Φ65~80mm)
- 真空ポンプ
- スパナまたは、モンキーレンチ
- トルクレンチ
- ポンプアダプタ
- フレアリングツール
- ガス漏れ検知器
- マニホールドバルブ
- チャージホース
- ポリシン

安全上のご注意

必ずお守りください。

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

- 表示内容を無視して誤った据え付け方をしていたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷を負うおそれがある」内容です。

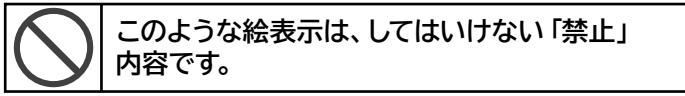


注意

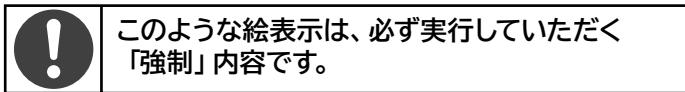
この表示の欄は、「軽傷を負うおそれまたは物的損害を生じるおそれがある」内容です。

- 据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、この据付説明書は、取扱説明書とともにお客様が保存頂くように依頼してください。

- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です)



このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



警告



- 据付工事は、お買い上げの販売店または、専門業者に依頼するご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災などの原因になります。



- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う

据え付けに不備があると、水漏れや感電・火災などの原因になります。



- 据え付けは、重量に十分耐える所で確実に行う

強度不足や取り付けが不完全な場合は、室外機の落下により、けがの原因になります。



- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する

電気回路容量不足や施工不備があると、感電や火災の原因になります。



- 接続ケーブルの配線は、途中接続やより線の使用はせず直径2mmの単線を使用して確実に接続する

端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する接続や固定が不安定な場合は、故障や発熱・火災の原因になります。



- 設置工事部品は、必ず付属部品及び指定の部品(別売部品等)を使用する

当社指定部品を使用しないと、室外機の落下・水漏れ・感電・火災および運転音や振動が大きくなる原因になります。



- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R410A)以外の空気などを混入させない

空気などが混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因になります。



- 指定冷媒(R410A)以外は使用(冷媒補充・入替え)しない

機器の故障や破裂・けがなどの原因になります。



- 銅製以外の冷媒配管を使用しない

強度が弱く、破損し冷媒漏れの原因になります。



- 配管の急な曲げ加工はポリシンなどを使用して、つぶれないように曲げるつぶれた部分より冷媒が漏れ、滞留し、火気に触ると、まれに引火する原因になります。



- 排水工事は、この据付説明書に従って、確実に排水するよう配管を行う

不確実な場合は、屋内に浸水し家財などを濡らす原因になります。



- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は、換気を行う

冷媒ガスが漏れ、滞留し、火気に触ると、まれに引火する原因があります。また有毒ガスが発生する原因になります。



警告



- 設置工事終了後、ガス漏れ検知器を使用して冷媒ガスが漏れていないことを確認する

冷媒ガスが漏れ、滞留し、火気に触ると、まれに引火する場合があります。また有毒ガスが発生する原因になります。



- アース(接地)を確実に行う

アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しない

アース(接地)が不確実な場合は、故障や漏電のとき感電の原因になります。



- 漏電遮断器を取り付ける

漏電遮断器が取り付けられていないと、感電・火災の原因になります。



- 据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける

冷媒配管が取り付けられていない状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧となり、破裂・けがなどの原因になります。



- 冷媒回収(ポンプダウン)作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する

圧縮機を運転したまま、冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧となり、破裂・けがなどの原因になります。



- 接続配線は、端子カバーが浮き上がりないように整形しカバーを取り付ける

カバーの取り付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。



- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所へは設置しない

万一、ガスが漏れて室外機の周囲にたまると、発火の原因になります。



注意



- 配管の急な曲げ加工はポリシンなどを使用して、つぶれないように曲げるつぶれた部分より冷媒が漏れ、滞留し、火気に触ると、まれに引火する原因になります。



- 排水工事は、この据付説明書に従って、確実に排水するよう配管を行う

不確実な場合は、屋内に浸水し家財などを濡らす原因になります。



据付場所の選定

(下記の点に注意し、お客さまの同意を得て据え付けてください。)

室内機



警告

- 本体を十分ささえられ、振動が出ない、強度のあるところに据え付ける



- 近くに熱の発生がなく、吹出口付近をふさがないところ
- 本体の上・下・左・右に下図の➡印の間隔をあけられるところ
- ドレン排水が容易にでき、室外機と配管接続ができるところ
- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所や、蒸気・油煙などの発生しないところ
引火や爆発、樹脂の劣化や破損のおそれがあります。
- 室内機およびリモコンはテレビやラジオから1m以上離す
画像の乱れや雑音が入ることがあります。
- 高周波機器、高出力の無線機器などからはできるだけ離す
エアコンが誤動作する場合があります。
- 電子点灯形の照明器具がある場合は、受信距離が短くなることがあります、
場合によっては信号を受け付けないことがあります

室内機(吹出口)を火災報知器から1.5m以上離して据え付けてください。

番号	付属品	員数
①	リモコンホルダー	1
②	乾電池(単4)	2
③	リモコンホルダー固定ねじ	2
④	フレア継手断熱	1
⑤	結束バンド	2
⑥	アルミテープ小	4
⑦	アルミテープ大	1
⑧	リモコン	1
⑨	表示パネル	1

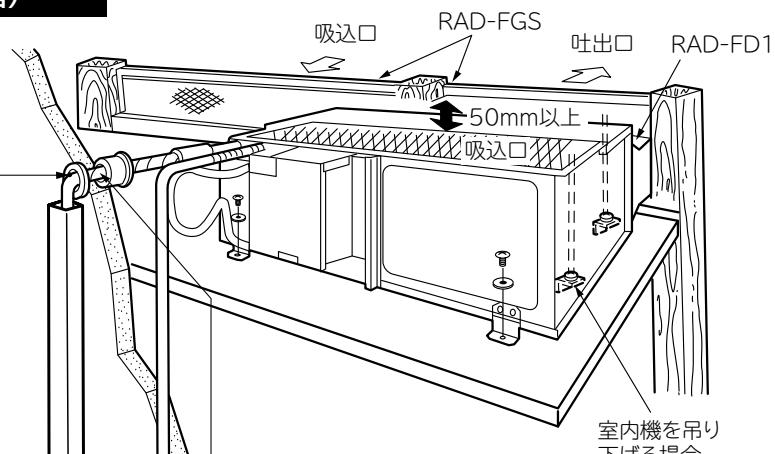
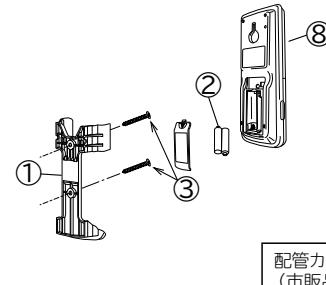
※⑨は室内電気品に接続されています。

室内機据付図

壁用形据付例(一間幅)

すき間がないよう確実にシールしてください。

右図の➡印寸法はエアコンの運転を保証するために必要な寸法です。後々のサービス・補修等を考慮してできるだけ周囲の空間が大きくなる場所に設置してください。



横引きなど室内を通す配管は、保冷パイプをかぶせてください。
(保冷パイプはサービス部品(RAP-284AX2 020)を使用してください。)

隠蔽部、および室内横引き配管を行う場合には、結露防止性能が高い配管を使用してください。

冷凍機油は水分に弱いため、サイクル内に水が入らないようにしてください。

配管は必ず細径側、太径側ともに断熱したものを使用し、表面にエアコン据付用テープを巻いてください。
テープを巻かないと、断熱材が早く劣化してしまいます。

断熱付ドレンホースの接続

内径16mm 横引きで室内を通す部分は断熱付ドレンホース(市販品)を使います。
ドレンホースを継ぎたすときは、水がもれないよう接続部にテープを巻いてください。

室外機

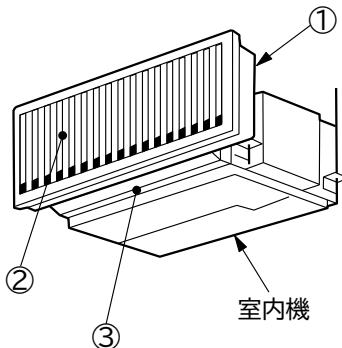
- 室内機と室外機の「高低差」および「配管長さ」は、室外機に同梱されている据付説明書に従ってください。
- 室外機についての説明は、室外機に同梱されている据付説明書をごらんください。

室内機の据え付けタイプと必要な別売部品

壁用形

半間幅タイプ

→ P.8、10、12



●壁用形据え付け(半間幅)時に必要な別売部品

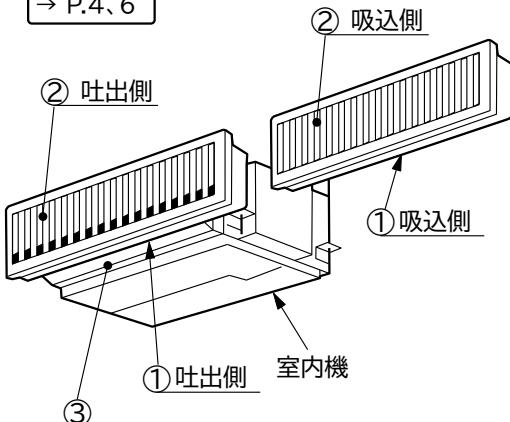
番号	部品	型式
①	据付木枠	RAD-WFU1 (RAD-WF2)
②	グリル	RAD-FGU (RAD-FGS)
③	吐出ダクト	RAD-FD1

※1 押入れ下据え付けの場合は①の据付木枠は使用しません。

※2 吸込口を側面に設置する場合
(P.8の図1または、P.10の図2の据付形態)は①、②は()内の部品を使用します。

一間幅タイプ

→ P.4、6



●壁用形据え付け(一間幅)時に必要な別売部品

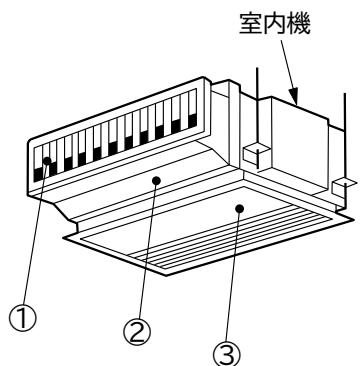
番号	部品	型式
①	据付木枠	RAD-WF2 (吸込側、吐出側のセット)
②	グリル	RAD-FGS (吸込側、吐出側のセット)
③	吐出ダクト	RAD-FD1

※1 押入れ下据え付けの場合は①の据付木枠は使用しません。

※2 室内機収納部をチャンバ状にできない場合は
P.7を参照してください。

下がり天井形

→ P.21



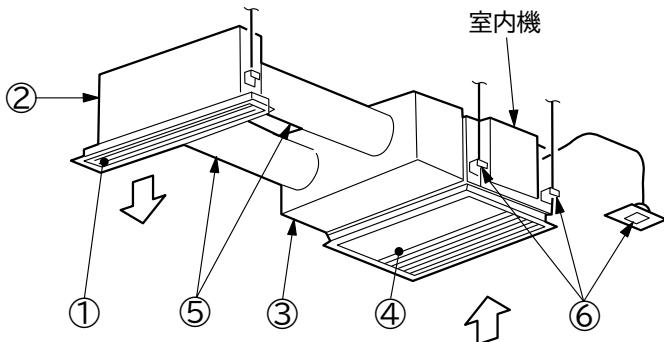
●下がり天井形据え付け時に必要な別売部品

番号	部品	型式
①	吐出グリル	RAD-FGL1
②	吐出ダクト	RAD-FD1
③	吸込グリル	RAD-SGL1

天井ダクト形

吐出ダクトタイプ

→ P.17



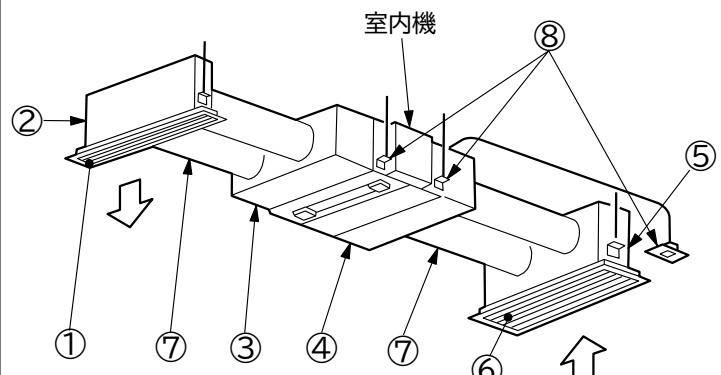
●吐出ダクトタイプ据え付け時に必要な別売部品

番号	部品	型式
①	吐出グリル	RAD-FG1
②	吐出グリル用チャンバΦ150mm	RAD-FGC1
③	吐出本体用チャンバΦ150mm	RAD-FC1
④	吸込グリル	RAD-SGL1
⑤	フレキシブルダクト Φ150mm 1m 2m	※ RAD-DUC100 RAD-DUC200
⑥	吊り金具セット	RAD-TK1

※フレキシブルダクトは1本入りです。必要な長さと本数を、それぞれの据え付け方法の項で確認してください。

吐出・吸込ダクトタイプ

→ P.13

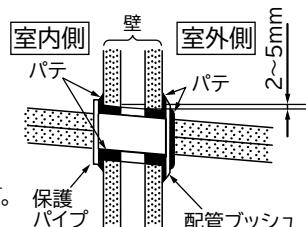


●吐出・吸込ダクトタイプ据え付け時に必要な別売部品

番号	部品	型式
①	吐出グリル	RAD-FG1
②	吐出グリル用チャンバΦ150mm	RAD-FGC1
③	吐出本体用チャンバΦ150mm	RAD-FC1
④	吸込本体用チャンバΦ150mm	RAD-SC1
⑤	吸込グリル用チャンバΦ150mm	RAD-SGC1
⑥	吸込グリル	RAD-SG1
⑦	フレキシブルダクト Φ150mm 1m 2m	※ RAD-DUC100 RAD-DUC200
⑧	吊り金具セット	RAD-TK1

1 壁穴あけおよび保護パイプの取り付け

- φ65mmの穴を外側へ下がりぎみにあけます。
- 保護パイプを壁の厚さに合わせて切断し壁穴に通します。
- 雨水や外気の浸入等がないようパテで完全にシールして配管ブッシュを付けます。
- ドレン配管用穴は別に設けてください。



- 保護パイプは必ず使用する
接続ケーブルが壁の中のメタルラスに接触したり、壁が中空の場合、ねずみにかじられたりして感電や火災の原因となります。
- エアコン据付用パテで完全にシールする
壁内や室外の高温空気が室内に侵入し、露たれの原因になります。また壁内や室外の臭いが室内に侵入する原因となります。

2 輸送用部品の取り外し

- テープや緩衝材を取り外してください。

3-1 壁用形室内機の据え付け

いろいろな据付方法ができますのでお部屋に合わせて、お好きな据付方法をお選びください。
点検および本体交換が可能な点検口を必ず設けてください。また、外部の空気を吸い込むことのないように板の合わせ目、貫通部は必ずふさいでください。

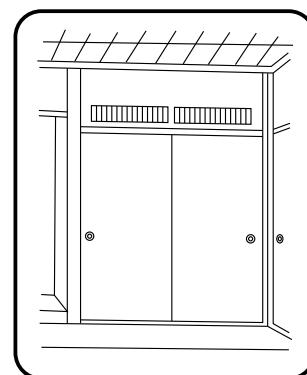
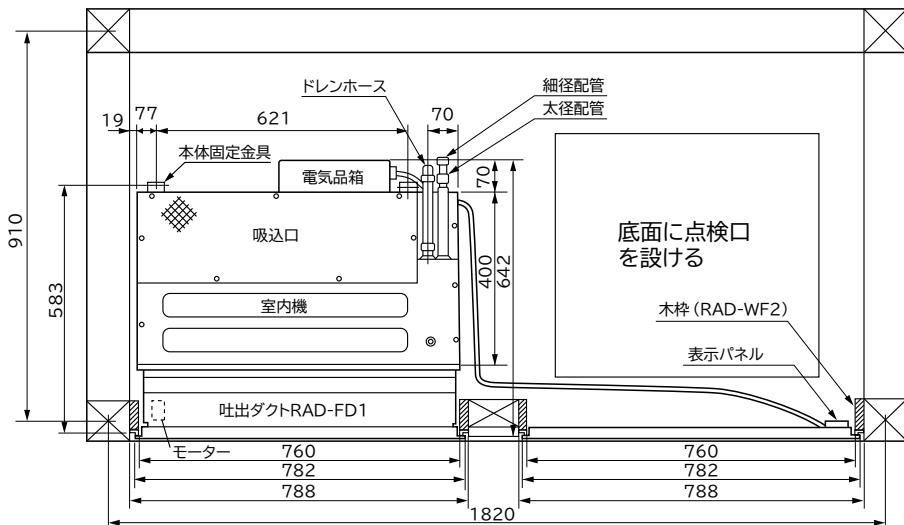
1. 一間幅押入れ上据え付けの場合（木枠 RAD-WF2 使用時）

別売部品のRAD-FGS、RAD-FD1、RAD-WF2を準備してください。

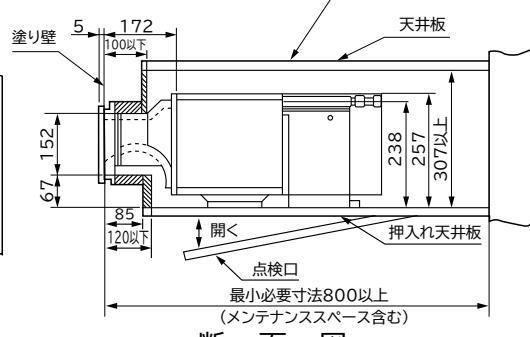
据付構成図

- 室内機を置く場合の据え付け方法です。点検口は、下図のように設けてください。点検口の関係から室内機を吊る場合には、「4.半間幅押入れ上据え付けの場合（P.8）」の項を参照してください。

(単位:mm)



外部（天井裏）の空気を吸い込まないように、周囲の板の合わせ目、貫通部は必ずふさいでください。

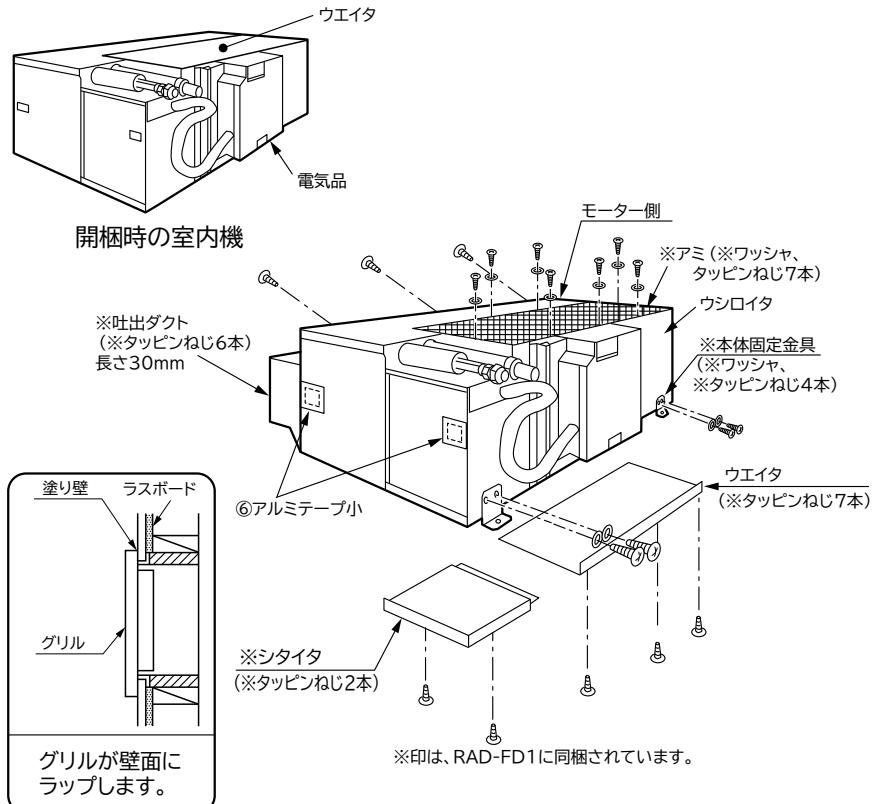


平 面 図

正 面 図

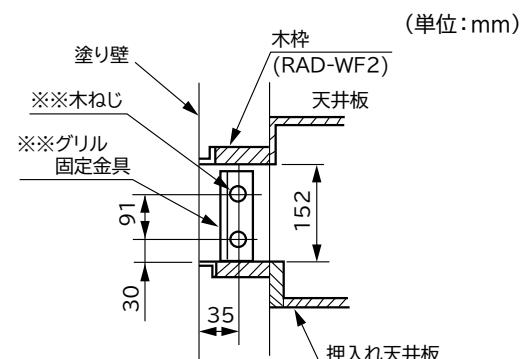
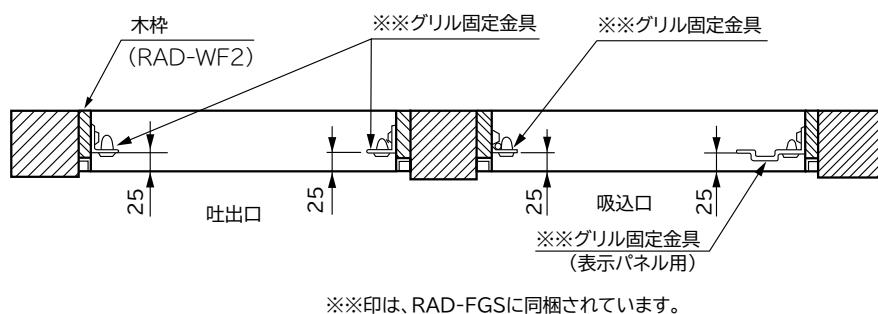
室内機据え付けの準備

- 室内機上面のウエイタを外し、アミをワッシャ、タッピングねじ7本で取り付けます。
- シタイタを本体底面にタッピングねじ2本で固定します。
- 本体底面に取り付けてある輸送用部品（板金）を取り外します。
- 外したウエイタを本体底面にタッピングねじ7本で取り付けます。
- ウシロイタに本体固定金具2個をワッシャとタッピングねじ4本で取り付けます。
- 室内機の吐出口に吐出ダクトを下向き（モーターのリード線が吹き出し口から見て左側）に合わせて、タッピングねじ6本で取り付けます。
- 両側面の角穴4カ所をアルミテープ小⑥でふさぎます。
- 電気品基板上の静圧切換スイッチを“標準”、設置場所切換スイッチを“上位置”に設定してください。（詳しくは「スイッチの設定・リード線の接続」（P.28）を参照してください。）
- 塩ビチューブにアルミテープ大⑦を巻いてください。「リード線の保護」（P.30）の項を参照してください。



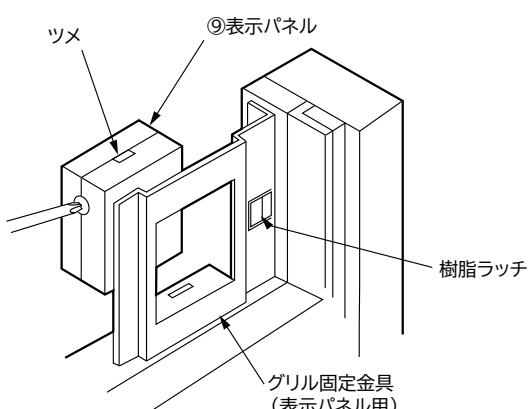
吸込、吐出グリルの固定金具の取り付け

- 下図のように左右同じ位置にグリル固定金具を木ねじ8本で取り付けます。



押入れへの据付け

- 室内機を据付構成図の位置に置き、室内機固定金具をワッシャと木ねじ2本で押入れ天井に固定します。吐出ダクトと吐出グリルの間にすき間があると、露付きの原因となりますので、吐出ダクトのシール材と、吐出グリルが密着しているかを確認してください。



表示パネルの取り付け

- 右図のように吸込側のグリル固定金具（表示パネル用）に表示パネルのツメが確実にかかるように表示パネルをはめ込んで取り付けます。以降は、「共通の据え付け」（P.24）の項を参照してください。

吸込、吐出グリルの取り付け

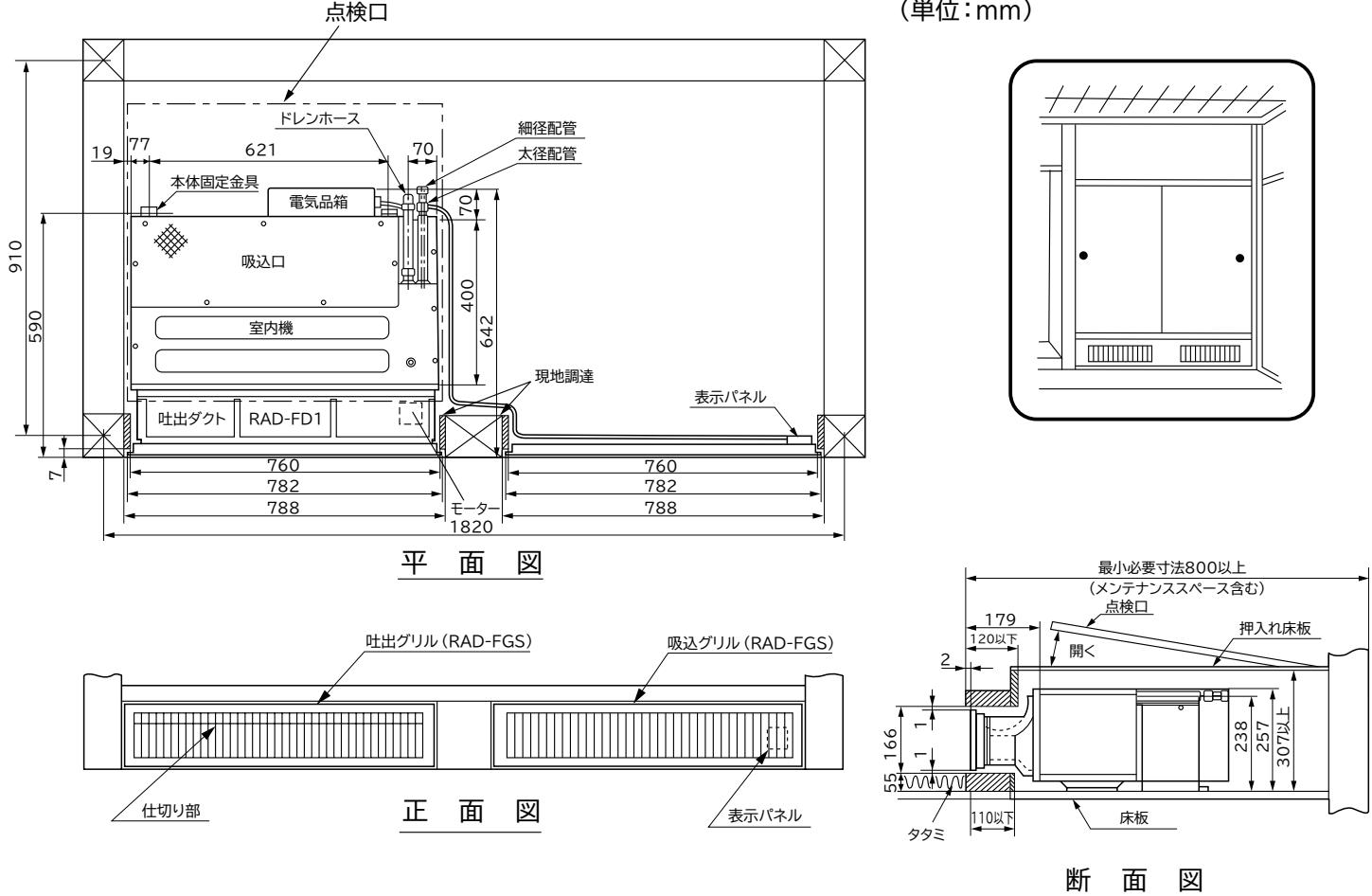
- グリルは、樹脂ラッチが確実に、はまり込むことを確認して取り付けます。

2. 一間幅押入れ下据え付けの場合(木枠 RAD-WF2は使用しません。)

別売部品のRAD-FGS、RAD-FD1を準備してください。

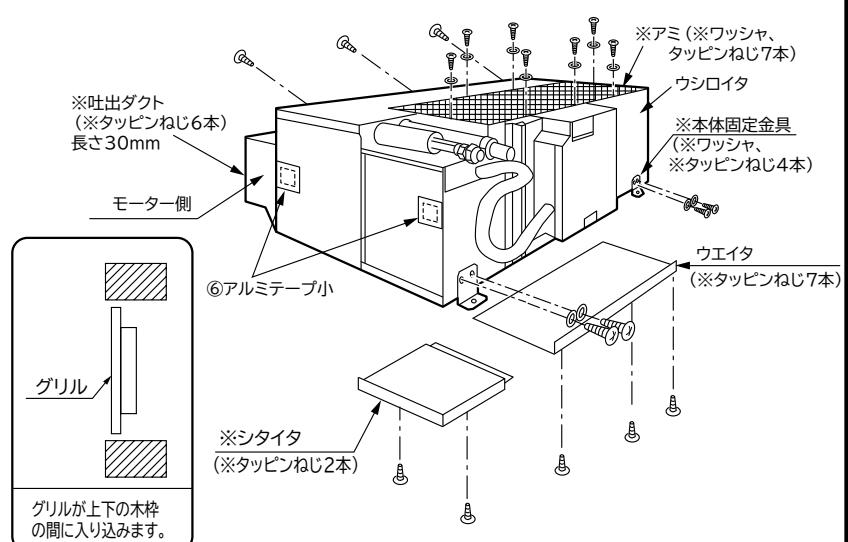
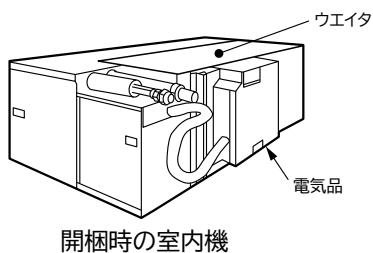
据付構成図

- 室内機を置く場合の据え付け方法です。点検口は、室内機の上部に設けてください。



室内機据え付けの準備

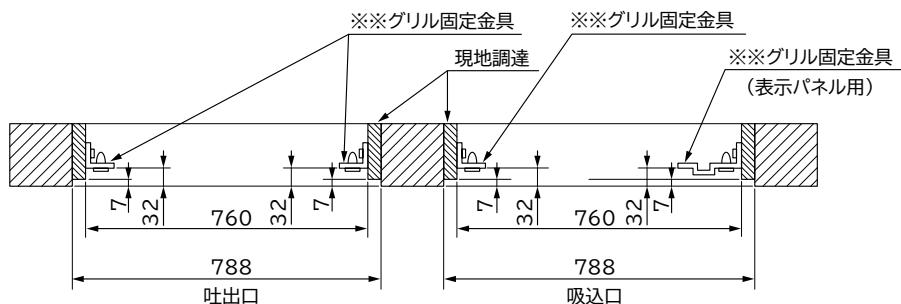
- 室内機上面のウエイタを外し、アミをワッシャ、タッピングねじ7本で取り付けます。
- シタイタを本体底面にタッピングねじ2本で固定します。
- 本体底面に取り付けてある輸送用部品(板金)を取り外します。
- 外したウエイタを本体底面にタッピングねじ7本で取り付けます。
- ウシロイタに本体固定金具2個をワッシャとタッピングねじ4本で取り付けます。
- 室内機の吐出口に吐出ダクトを上向き(モーターのリード線が吹き出し口から見て右側)に合わせて、タッピングねじ6本で取り付けます。
- 両側面の角穴4カ所をアルミテープ小⑥でふさぎます。
- 電気品基板上の静圧切換スイッチを“標準”、設置場所切換スイッチを“下位置”に設定してください。(詳しくは「スイッチの設定・リード線の接続」(P.28)を参照してください。)
- 塩ビチューブにアルミテープ大⑦を巻いてください。「リード線の保護」(P.30)の項を参照してください。



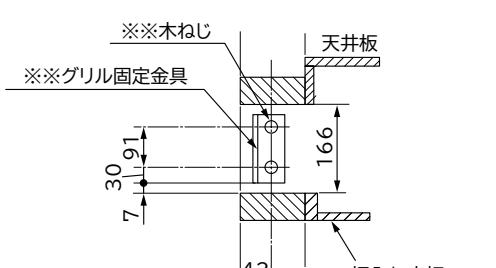
※印は、RAD-FD1に同梱されています。

吸込、吐出グリルの固定金具の取り付け

- 下図のように左右同じ位置にグリル固定金具を木ねじ8本で取り付けます。

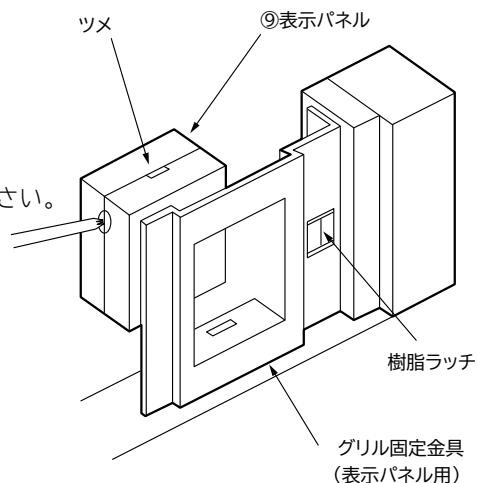


※※印は、RAD-FGSに同梱されています。



押入れへの据付け

- 室内機を据付構成図の位置に置き、室内機固定金具をワッシャと木ねじ2本で押入れ床板に固定します。吐出ダクトと吐出グリルの間にすき間があると露付きの原因となりますので、吐出ダクトのシール材と吐出グリルが密着しているかを確認してください。



表示パネルの取り付け

- 右図のように吸込側のグリル固定金具(表示パネル用)に表示パネルのツメが確実にかかるように、表示パネルをはめ込んで取り付けます。
以降は、「共通の据付け」(P.24)の項を参照してください。

吸込、吐出グリルの取り付け

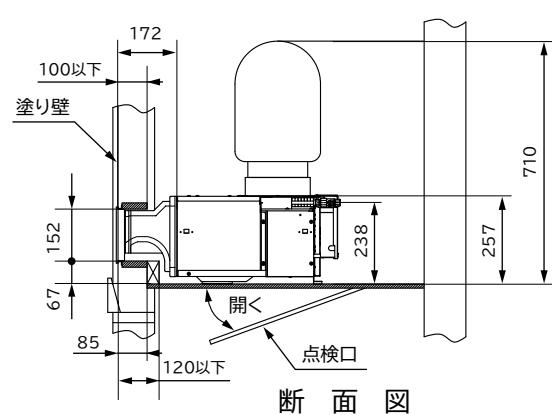
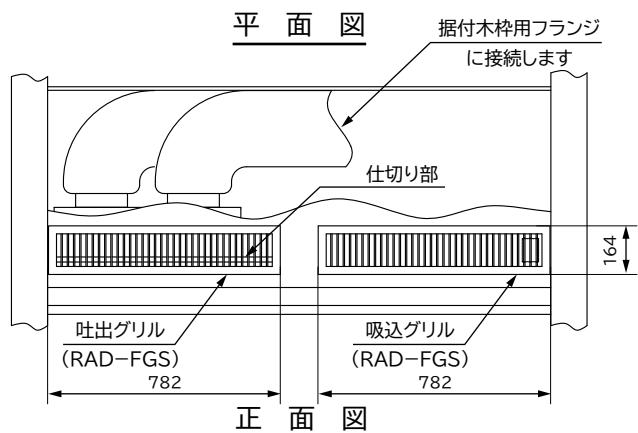
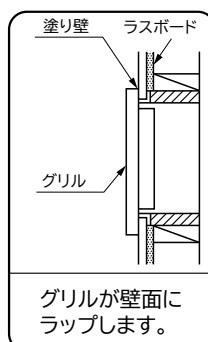
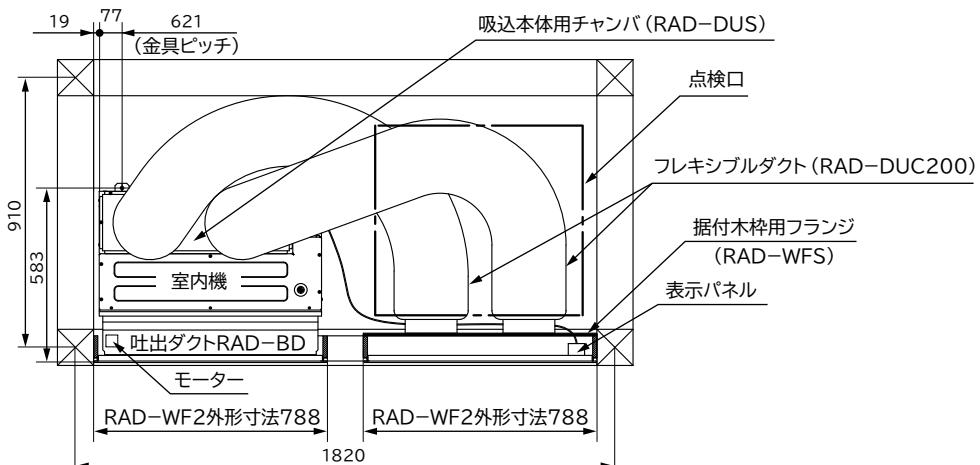
- グリルは、樹脂ラッチが確実にはまり込むことを確認して取り付けます。

3. 室内機収納部をチャンバ状にできない場合

別売部品のRAD-FGS、RAD-FD1、RAD-WF2、RAD-WFS、RAD-DUSを準備してください。
※フレキシブルダクトは日立標準品RAD-DUC200、あるいは市販品（内径Φ150mm）をご利用ください。

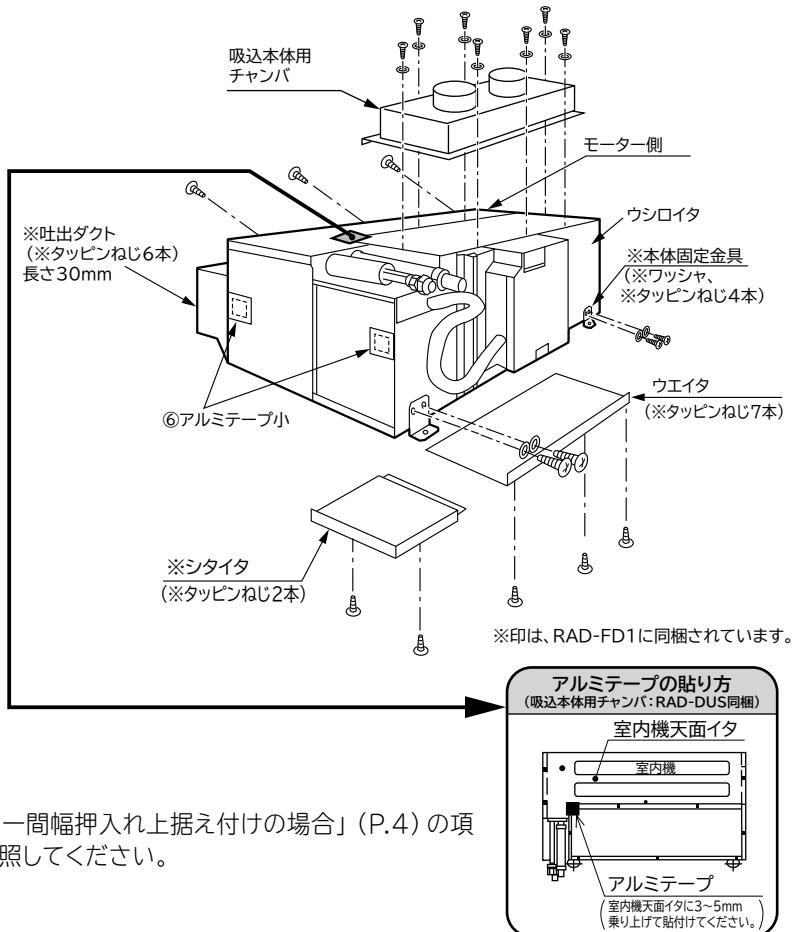
据付構成図

- 室内機を置く場合の据付け方法です。点検口は、下図のように設けてください。点検口の関係から室内機を吊る場合には、「4.半間幅押入れ上据付けの場合」(P.8)の項を参照してください。



室内機据え付けの準備

- シタイタを本体底面にタッピングねじ2本で固定します。
- 本体底面に取り付けてある輸送用部品(板金)を取り外します。
- 室内機上面のウエイタを外し、外したウエイタを本体底面にタッピングねじ7本で取り付けます。
- 吸込本体用チャンバ(RAD-DUS)に同梱されているアルミテープを、右下図のように貼り付けます。
- ウエイタを取り外した場所に吸込本体用チャンバ(RAD-DUS)をタッピングねじ7本で取り付けます。
- ウエイタに本体固定金具2個をワッシャとタッピングねじ4本で取り付けます。
- 室内機の吐出口に吐出ダクトを下向き(モーターのリード線が吹き出し口から見て左側)に合わせて、タッピングねじ6本で取り付けます。
- 両側面の角穴4カ所をアルミテープ小⑥でふさぎます。
- 電気品基板上の静圧切換スイッチを“中圧”、設置場所切換スイッチを“上位置”に設定してください。
(詳しくは「スイッチの設定・リード線の接続」(P.28)を参照してください。)
- 塩ビチューブにアルミテープ大⑦を巻いてください。
「リード線の保護」(P.30)の項を参照してください。



吸込、吐出グリルの固定金具の取り付け

押入れへの据え付け

表示パネルの取り付け

吸込、吐出グリルの取り付け

「1. 一間幅押入れ上据え付けの場合」(P.4) の項を参照してください。

4. 半間幅押入れ上(吸込口側面) 据え付けの場合(木枠 RAD-WF2使用時)

別売部品のRAD-FGS、RAD-FD1、RAD-WF2を準備してください。

据付構成図

- 室内機を吊る場合の据付方法です。点検口は、室内機の下部に設けてください。点検口の関係から室内機を置く場合には、「1. 一間幅押入れ上据え付けの場合」(P.4) の項を参照してください。

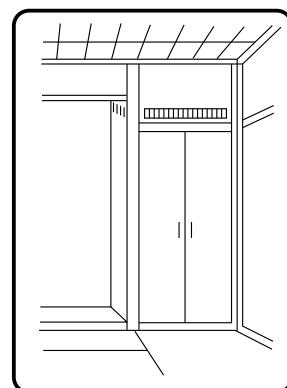
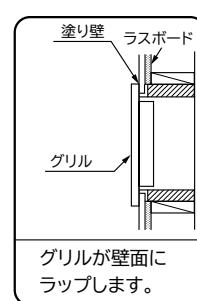
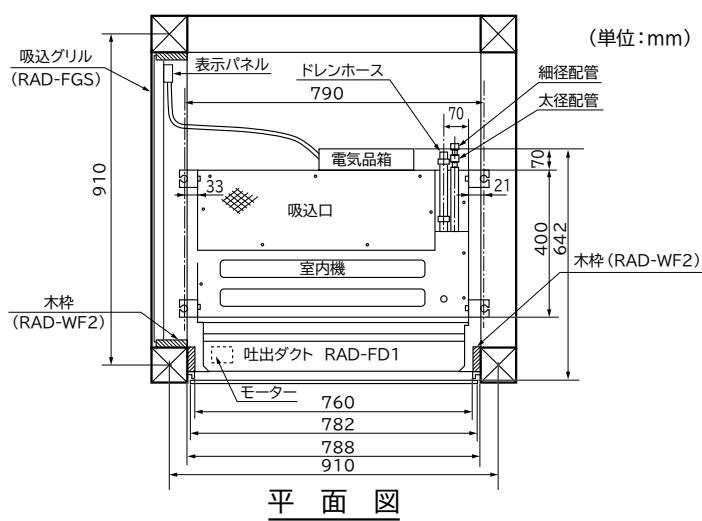
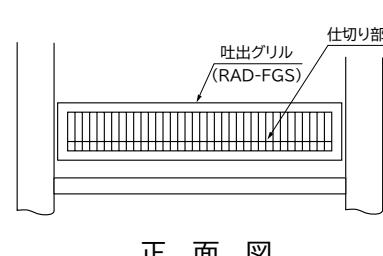
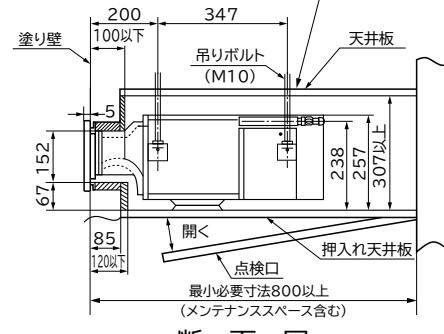


図1



外部(天井裏)の空気を吸い込まないように、周囲の板の合せ目、貫通部は必ずふさいでください。

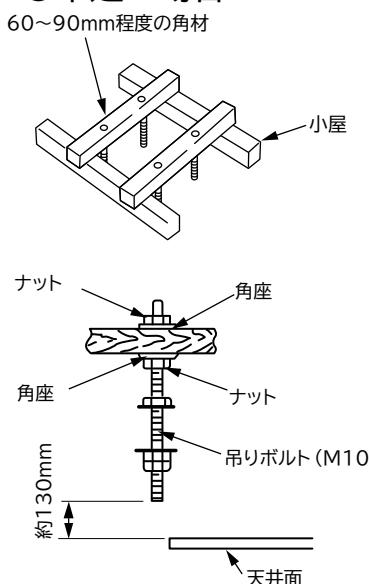


断面図

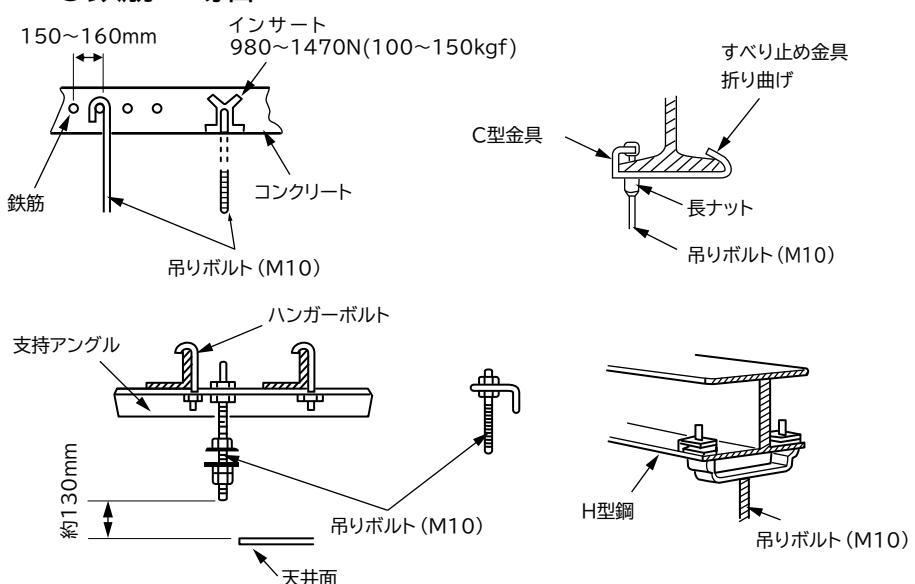
吊りボルトの設置

- 天井の水平度を正しく保ち、天井板の振動を防ぐために、必ず天井下地（骨組：野縁と野縁受け）の補強をしてください。
- 吊りボルト（M10）は現地調達してください。
- 吊りボルトの長さは下図を参考にしてください。

●木造の場合

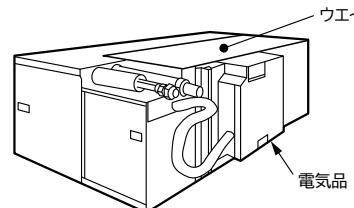


●鉄筋の場合

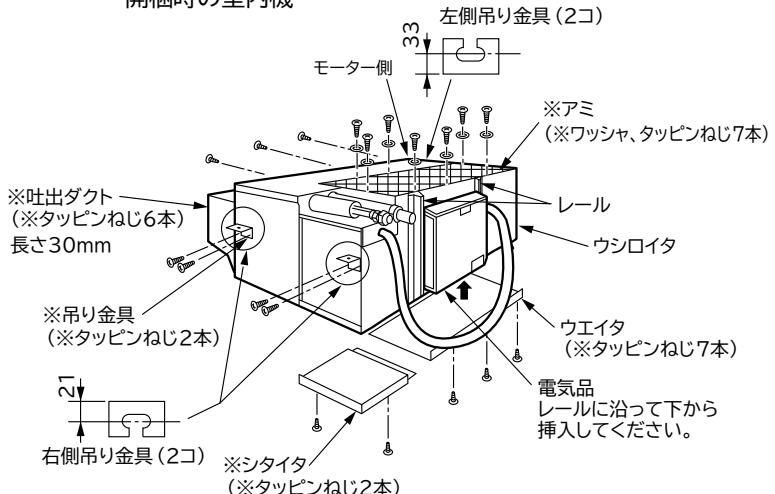


室内機据え付けの準備

- 室内機上面のウエイタを外し、アミをワッシャ、タッピンねじ7本で取り付けます。
- シタイタを本体底面にタッピンねじ2本で固定します。
- 本体底面に取り付けてある輸送用部品（板金）を取り外します。
- 外したウエイタを本体底面にタッピンねじ7本で取り付けます。
- 電気品をレール上面で固定しているねじ2本を取り外し、電気品を上方向に引き抜きます。
- 電気品を上下反転させ、レールに沿って下から挿入し、レール底面でねじ2カ所を固定します。
- 室内機の吐出口に吐出ダクトを下向き（モーターのリード線が吹き出し口から見て左側）に合わせて、タッピンねじ6本で取り付けます。
- 室内機側面に吊り金具4個をタッピングねじ8本を使用して取り付けます。
（左右の吊り金具寸法の一部が異なりますので右図を参考してください。）
- 電気品基板上の静圧切換スイッチを“標準”、設置場所切換スイッチを“上位置”に設定してください。
(詳しくは「スイッチの設定・リード線の接続」(P.28)を参照してください。)
- 塩ビチューブにアルミテープ大⑦を巻いてください。
「リード線の保護」(P.30)の項を参照してください。



開梱時の室内機



※印は、RAD-FD1に同梱されています。

吸込、吐出グリルの固定金具の取り付け

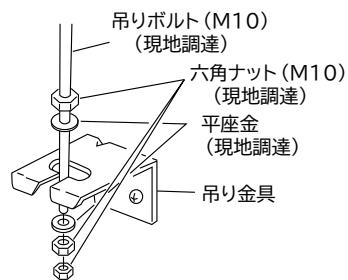
押入れへの据え付け

- 室内機を持ち上げ、吊りボルトに吊り金具を固定します。
(右図参照) 吐出ダクトと吐出グリルの間にすき間があると、露付きの原因となりますので吐出ダクトのシール材と吐出グリルが密着しているかを確認してください。
以降は、「共通の据え付け」(P.24) の項を参照してください。

表示パネルの取り付け

吸込、吐出グリルの取り付け

「1. 一間幅押入れ上据え付けの場合」(P.4) のそれぞれの項を参照してください。



5. 半間幅押入れ下(吸込口側面、吐出口前面)据え付けの場合(木枠 RAD-WF2は使用しません。)

別売部品のRAD-FGS、RAD-FD1を準備してください。

据付構成図

●点検口は、室内機の上部に設けてください。

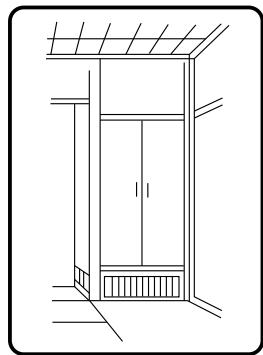
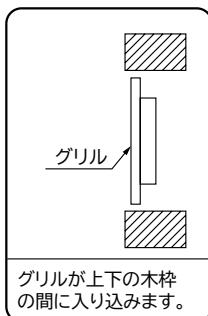
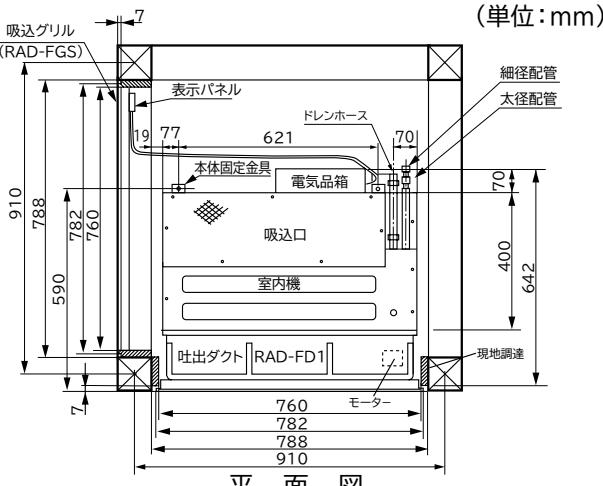
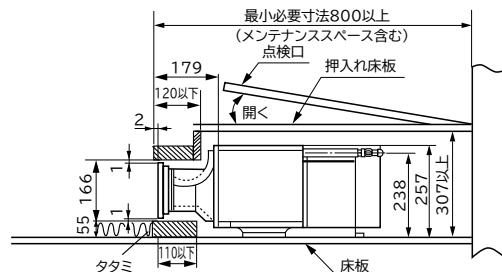
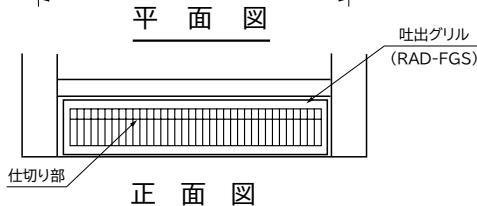


図2



断面図

室内機据え付けの準備

吸込、吐出グリルの固定金具の取り付け

押入れへの据え付け

以降は、「共通の据え付け」(P.24) の項を参照してください。

表示パネルの取り付け

吸込、吐出グリルの取り付け

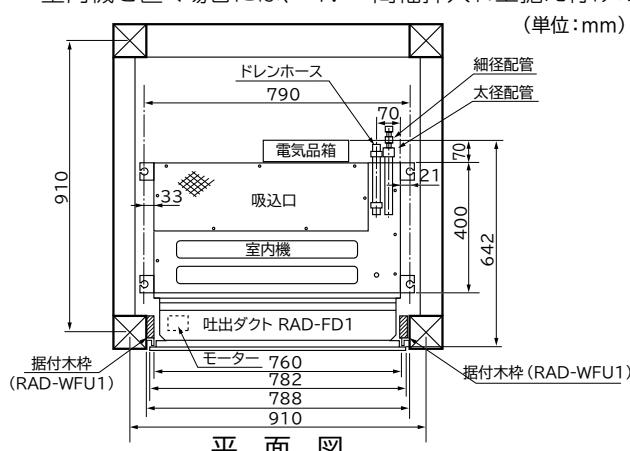
「2. 一間幅押入れ下据え付けの場合」(P.6) の項
を参照してください。

6. 半間幅押入れ上(吸込口、吸出口共前面)据え付けの場合(木枠 RAD-WFU1 使用時)

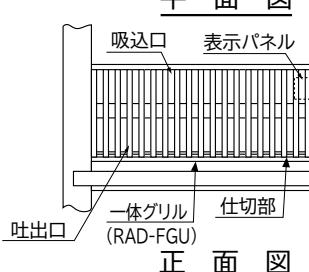
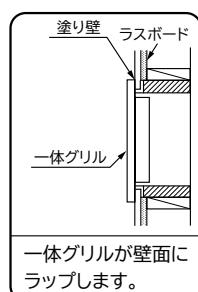
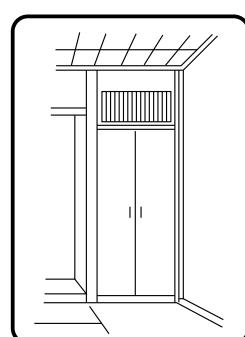
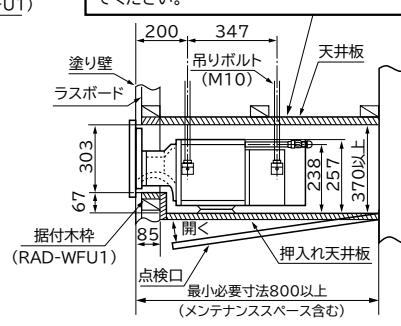
別売部品のRAD-FGU、RAD-FD1、RAD-WFU1を準備してください。

据付構成図

●室内機吊る場合の据付方法です。点検口は、室内機の下部に設けてください。点検口の関係から
室内機を置く場合には、「1. 一間幅押入れ上据え付けの場合」(P.4) の項を参照してください。



外部(天井裏)の空気を吸い込まないように、
周囲の板の合せ目、貫通部は必ずふさい
でください。



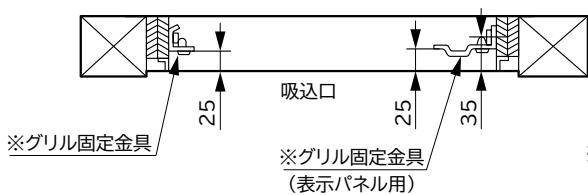
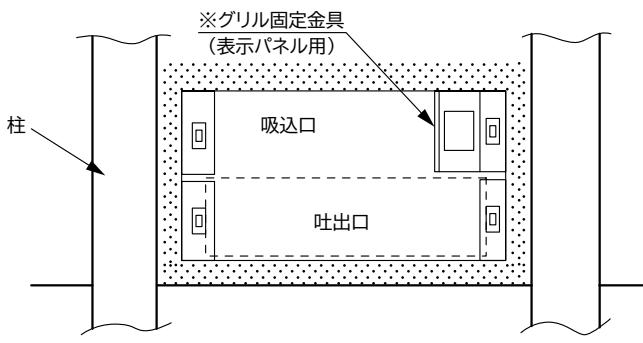
断面図

吊りボルトの設置

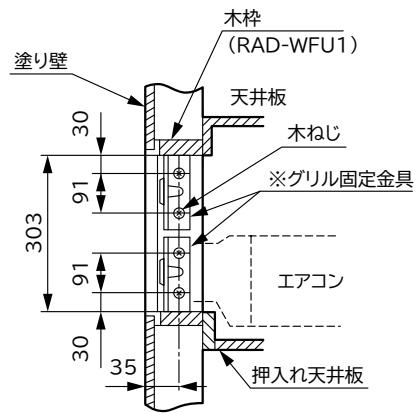
室内機据え付けの準備

吸込、吐出グリルの固定金具の取り付け

- 下図のように左右同じ位置にグリル固定金具を木ねじ8本で取り付けます。

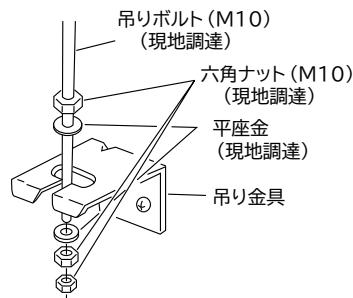


※印は、RAD-FGUに同梱されています。



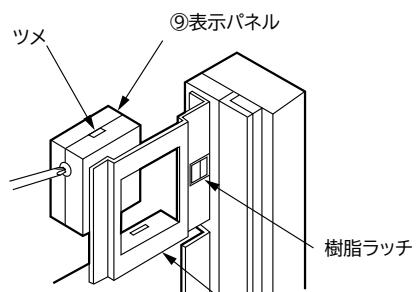
押入れへの据付け

- 室内機を持ち上げ、吊りボルトに吊り金具を固定します。
(右図参照) 吐出ダクトと吐出グリルの間にすき間があると、露付きの原因となりますので吐出ダクトのシール材と吐出グリルが密着しているかを確認してください。



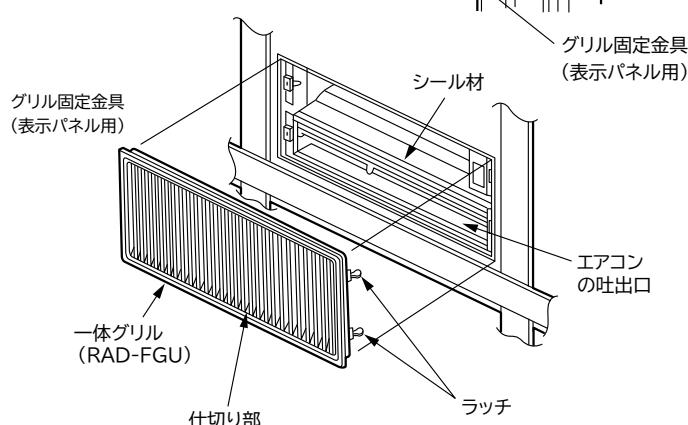
表示パネルの取り付け

- 右図のように吸込側のグリル固定金具(表示パネル固定用)に表示パネルのツメが確実にかかるように、表示パネルをはめ込んで取り付けます。
以降は、「共通の据え付け」(P.24)の項を参照してください。



吸込、吐出グリルの取り付け

- グリルは、樹脂ラッチが確実に、はまり込むことを確認して取り付けます。

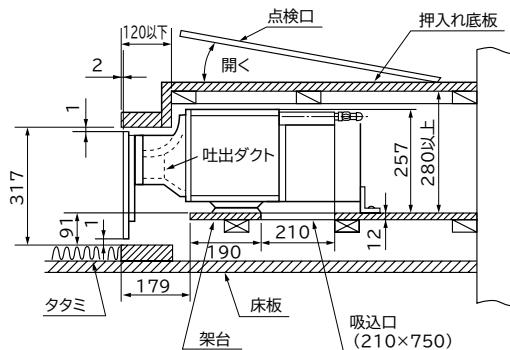
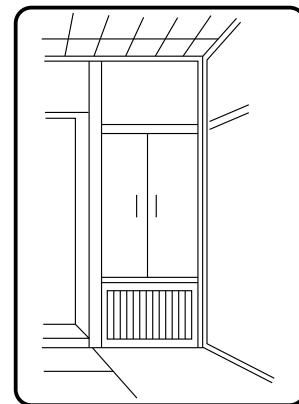
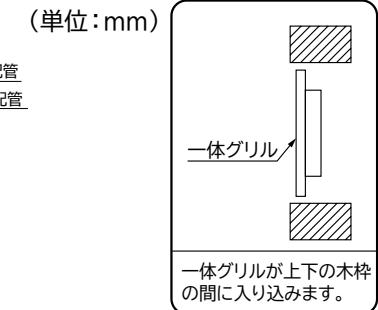
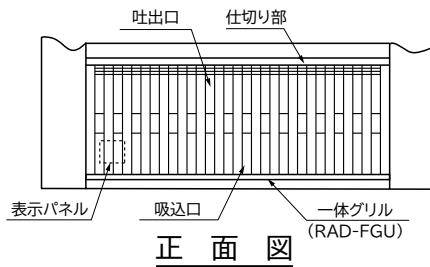
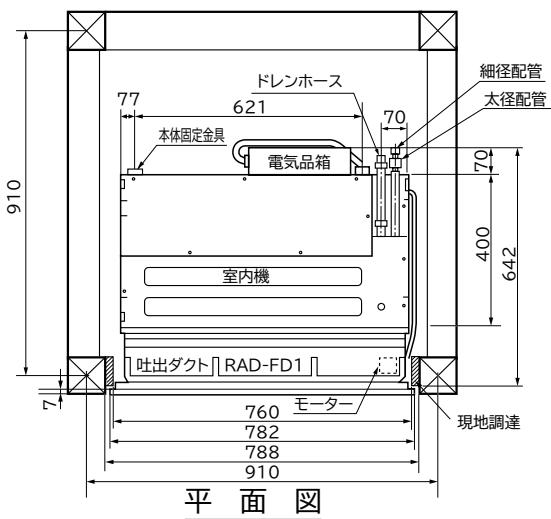


7. 半間幅押入れ下(吸込口、吸出口共前面)据え付けの場合(木枠 RAD-WFU1は使用しません。)

別売部品のRAD-FGU、RAD-FD1を準備してください。

据付構成図

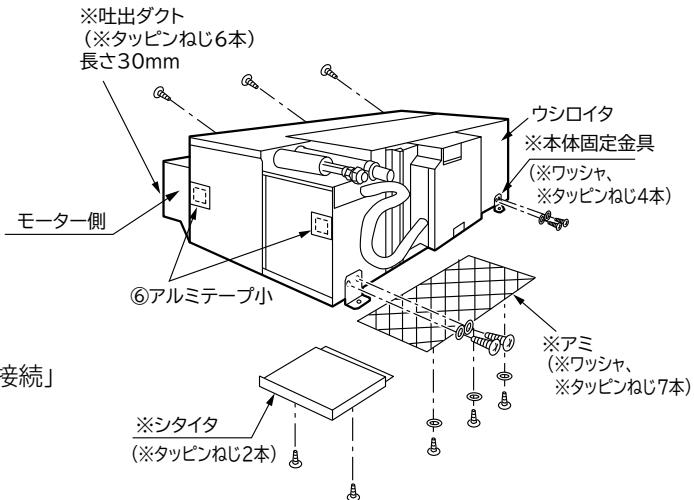
- 点検口は、室内機の上部に設けてください。



断面図

室内機据え付けの準備

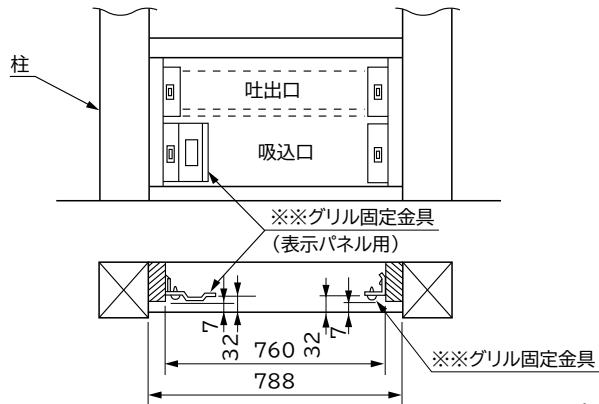
- シタイタを本体底面にタッピンねじ2本で固定します。
- 本体底面に取り付けてある輸送用部品(板金)を取り外します。
- 室内機底面にワッシャとタッピンねじ7本でアミを取り付けます。
- ウシロイタに本体固定金具2個をワッシャとタッピンねじ4本で取り付けます。
- 室内機の吐出口に吐出ダクトを上向き(モーターのリード線が吹き出し口から見て右側)に合わせてタッピンねじ6本で取り付けます。
- 両側面の角穴4カ所をアルミテープ小⑥でふさぎます。
- 電気品基板上の静圧切換スイッチを“標準”、設置場所切換スイッチを“下位置”に設定してください。(詳しくは「スイッチの設定・リード線の接続」(P.28)を参照してください。)
- 塩ビチューブにアルミテープ大⑦を巻いてください。
「リード線の保護」(P.30)の項を参照してください。



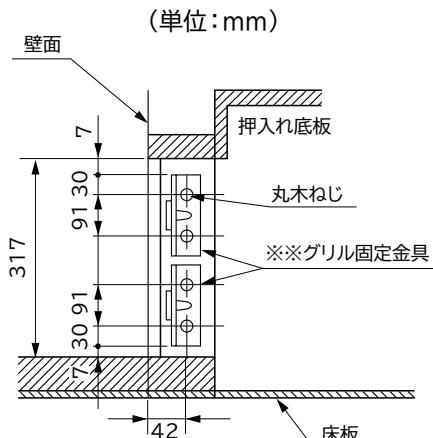
※印は、RAD-FD1に同梱されています。

吸込、吐出グリルの固定金具の取り付け

- 下図のように左右同じ位置にグリル固定用金具をねじ8本で固定します。

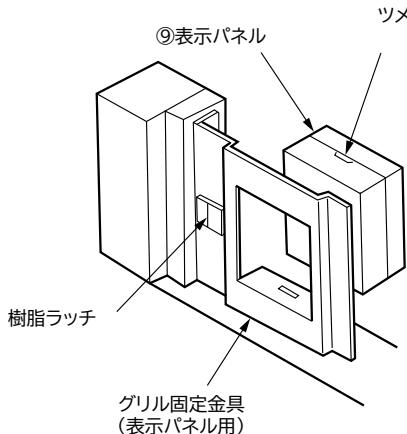


※※印は、RAD-FGUに同梱されています。



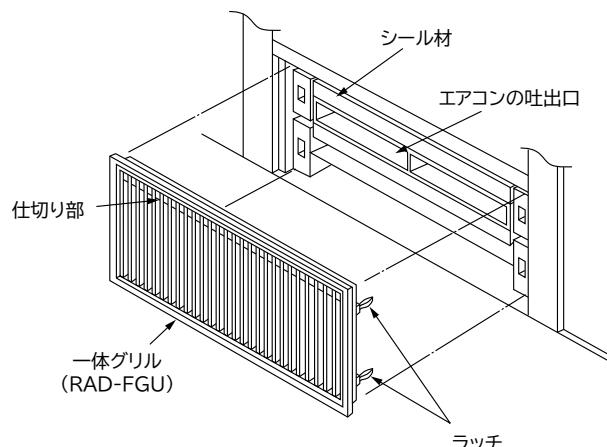
押入れへの据付け

- 室内機を据付構成図の位置に置き、室内機固定金具をワッシャと木ねじ2本で押入れ床板に固定します。吐出ダクトと吐出グリルの間にすき間があると露付きの原因となりますので吐出ダクトのシール材と吐出グリルが密着しているかを確認してください。



表示パネルの取り付け

- 右図のように吸込側のグリル固定金具(表示パネル固定用)に表示パネルのツメが確実にかかるように、表示パネルをはめ込んで取り付けます。以降は、「共通の据え付け」(P.24)の項を参照してください。



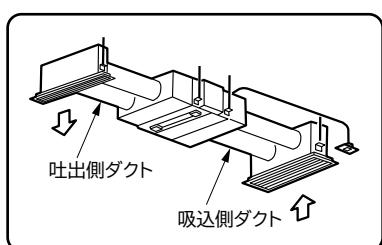
吸込、吐出グリルの取り付け

- グリルは、樹脂ラッチが確実に、はまり込むことを確認して取り付けます。

3-2 天井ダクト形室内機の据え付け

1. 吐出・吸込ダクトタイプ据え付けの場合

別売部品のRAD-SG1、RAD-SGC1、RAD-SC1、RAD-FG1、RAD-FGC1、RAD-FC1、RAD-DUC100（1m用）または、RAD-DUC200（2m用）、RAD-TK1を準備してください。吐出口を分岐して空調する場合は、P.17を参照してください。



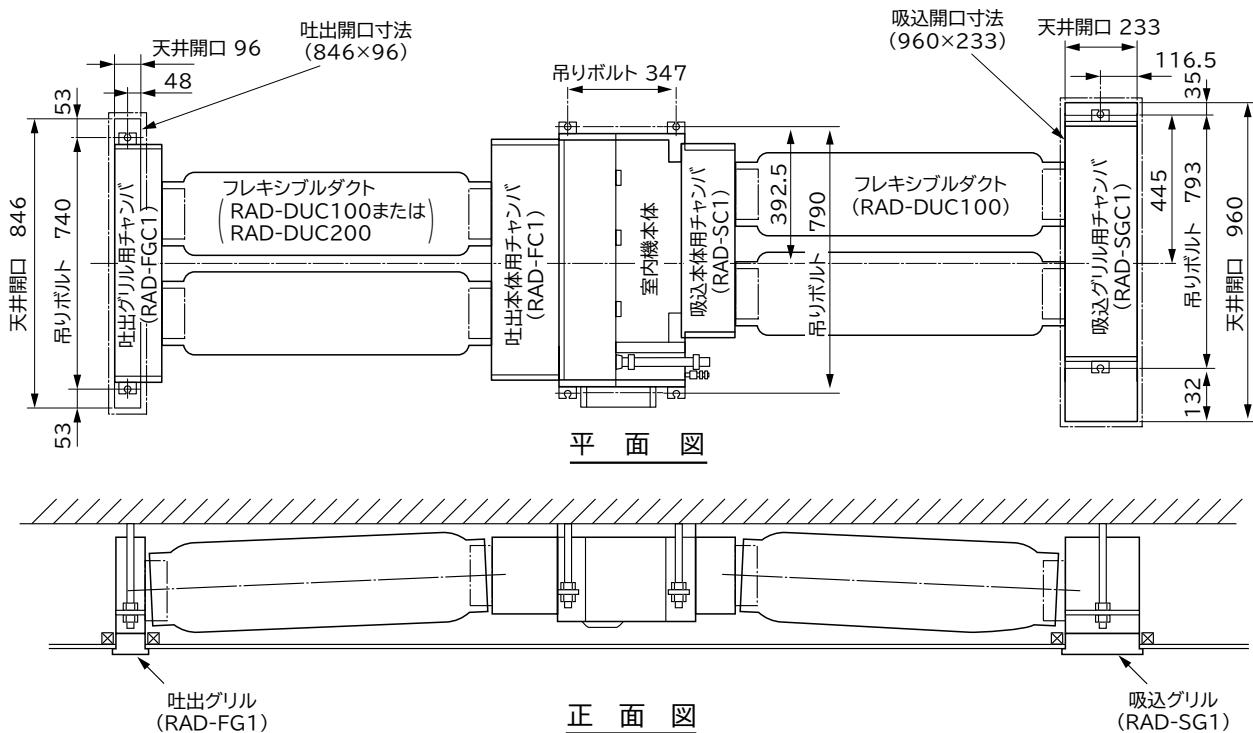
●ダクトの許容長さと曲がり

	許容ダクト長	ダクト曲がり部
吐出側ダクト	吸込側と合わせて4m以下	90°以下 1ヵ所
吸込側ダクト	1m以下	45°以下 1ヵ所

- 冷風や温風が部屋全体に行きわたるよう、室内機の位置、吐出口の向きを選定してください。室内機の位置は、天井面で壁面寄り位置が標準設置位置です。
- 工事・点検およびサービスの時のユニット交換ができる出入口スペースを必ず設けてください。
- 本体下の天井裏面には、万一の水滴落下を考慮して防水処理を行ってください。
- 吸込グリル下1m以内には、空気の流れの防げとなる障害物を置かないでください。

据付構成図

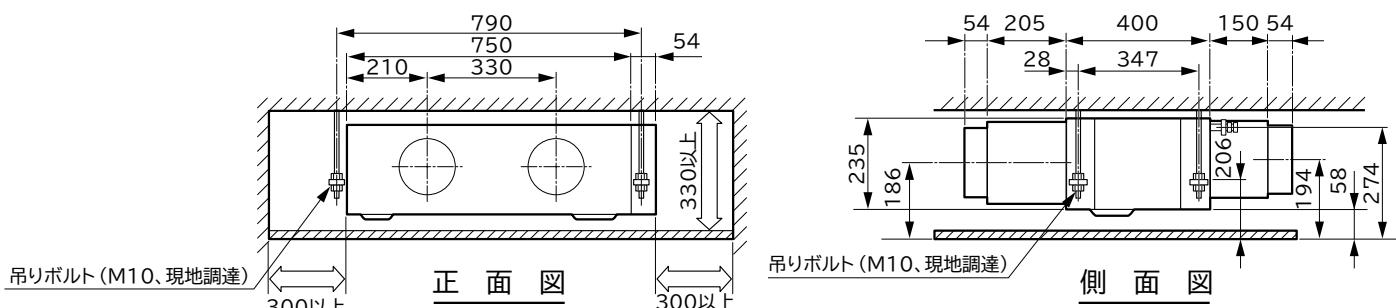
(単位:mm)



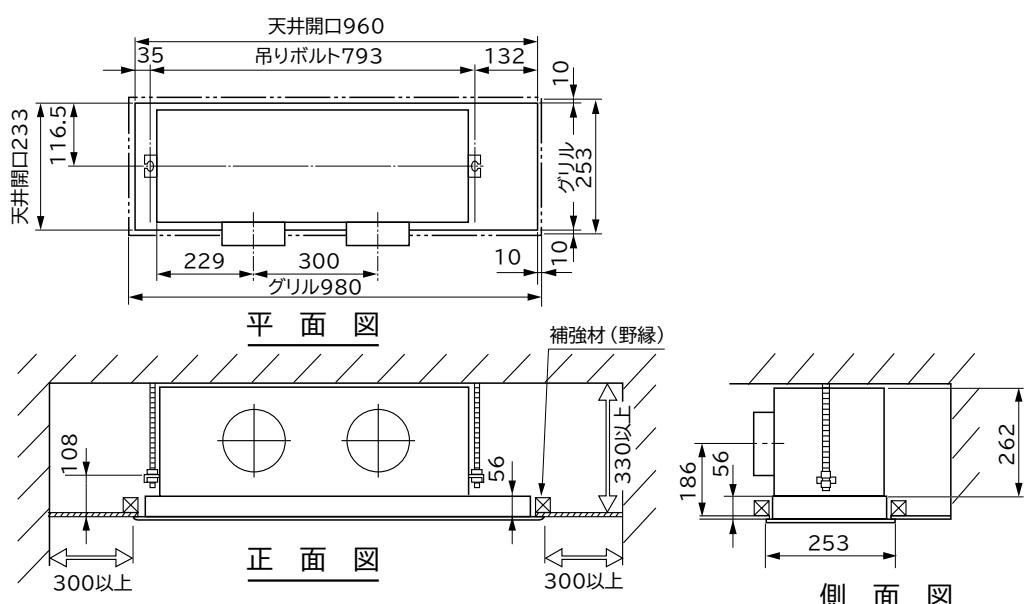
天井開口部と吊りボルトの位置

(単位:mm)

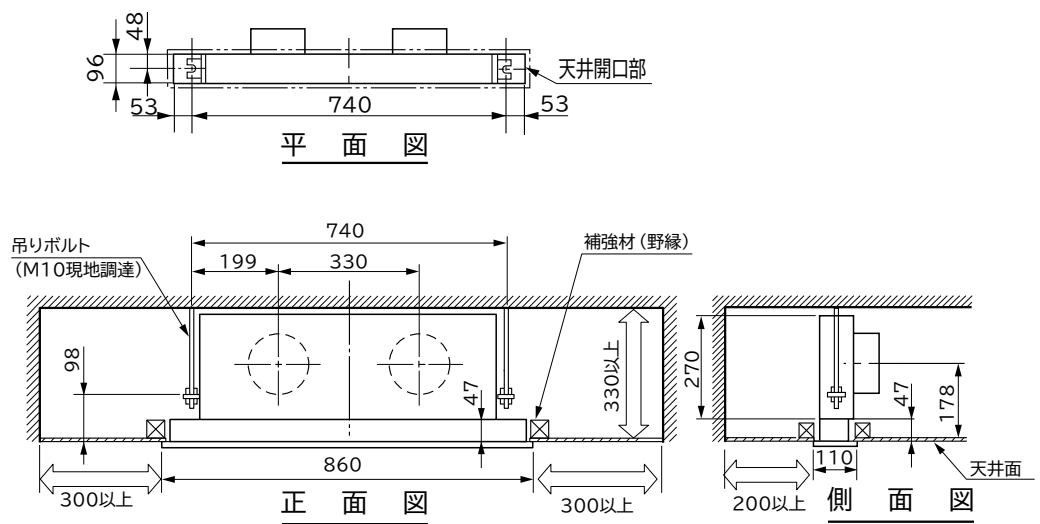
室内機取り付け部



吸込グリル用チャンバ (RAD-SGC1) 取り付け部



吐出グリル用チャンバ（RAD-FGC1）取り付け部

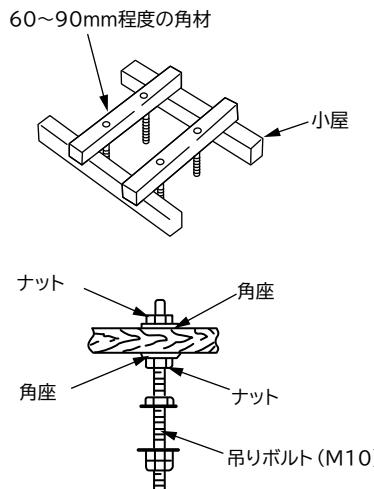


- 配管、接続電線の取付位置までドレン配管、冷媒配管、Fケーブルを引いてください。
- 天井開口部の仕上げについては、詳しく建築業者と打ち合せてください。

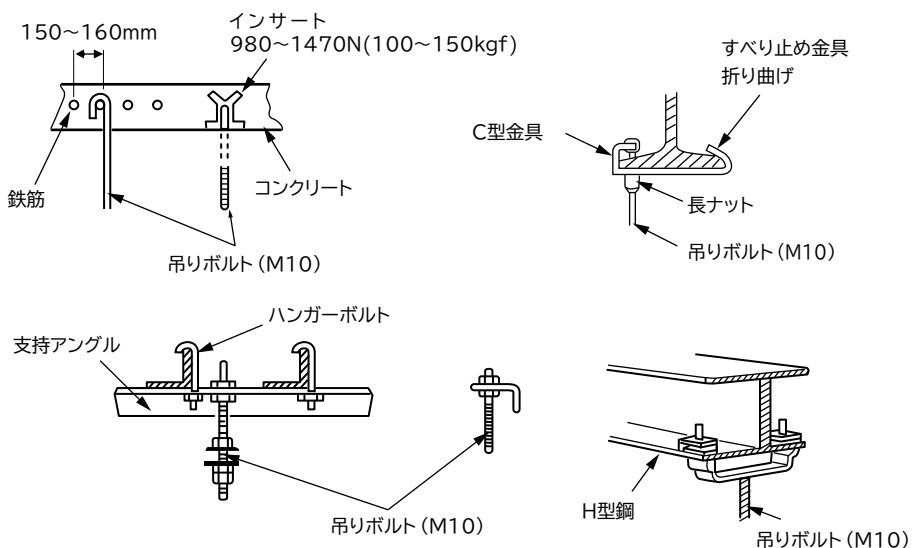
吊りボルトの設置

- 天井の水平度を正しく保ち、天井板の振動を防ぐために、必ず天井下地（骨組：野縁と野縁受け）の補強をしてください。
- 吊りボルト（M10）は現地調達してください。
- 吊りボルトの長さは下図を参考にしてください。

●木造の場合

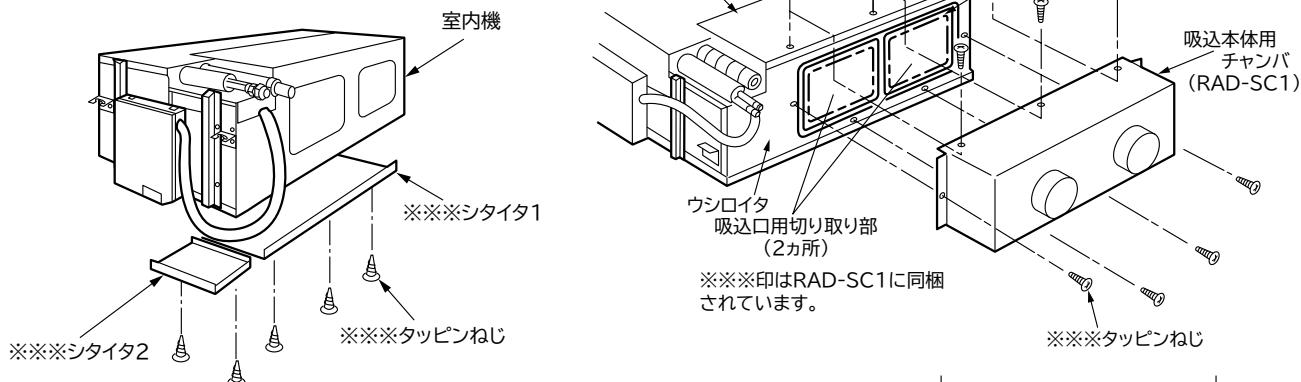
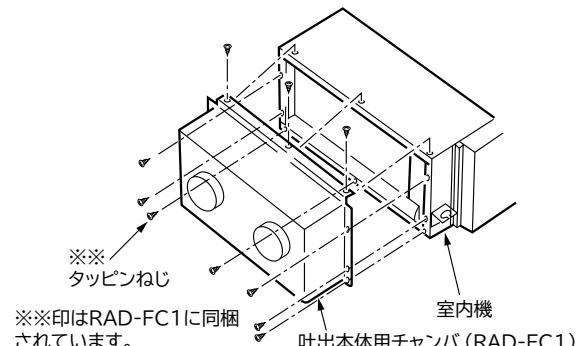
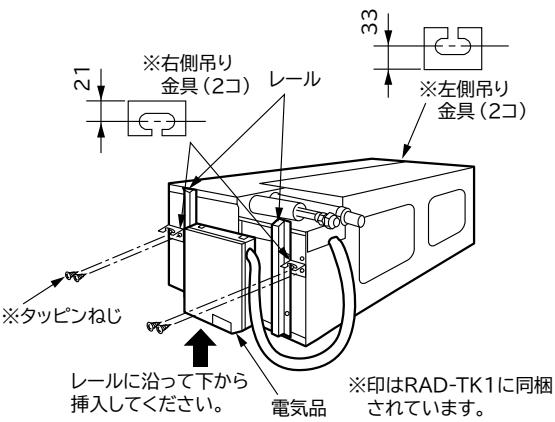


●鉄筋の場合



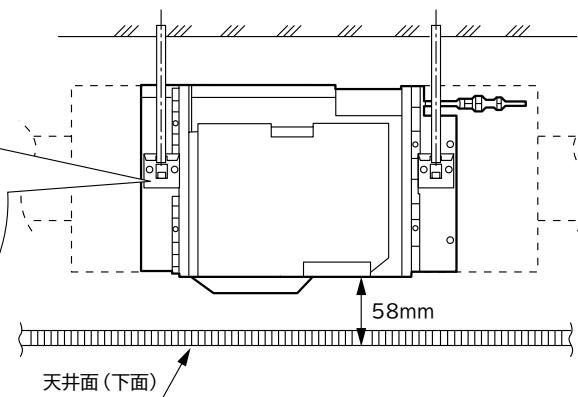
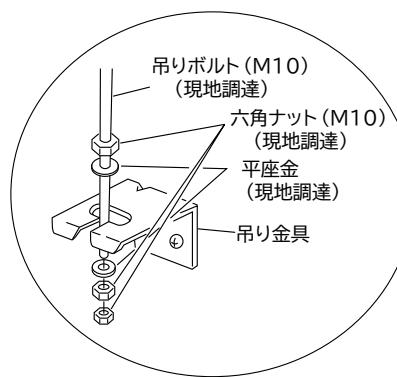
室内機据え付けの準備

- 本体底面に取り付けてある輸送用部品(板金)を取り外します。
- レールを固定しているねじ4本を取り外し、レールごと電気品を取り外します。
- 取り外した電気品を室内機側面(吹き出入口から見て右側)にレールごとねじ4本で固定します。
- 電気品をレール上面で固定しているねじ2本を取り外し、電気品を上方向に引き抜きます。
- 電気品を上下反転させ、レールに沿って下から挿入し、レール底面でねじ2カ所を固定します。
- 室内機両側面に別売部品の吊り金具(RAD-TK1)左右各2個をタッピンねじ8本で固定します。
(左右の吊り金具寸法の一部が異なりますので右図を参考してください。)
- 別売部品の吐出本体用チャンバ(RAD-FC1)を室内機にタッピンねじ10本で固定します。
- 室内機下面にシタイタ1、2をタッピンねじ9本で固定します。(シタイタ2を固定後シタイタ1を固定します。)
- 室内機のウシロイタにある吸込口用切り取り部をニッパー等で切り取り開口します。(2カ所)
- 室内機のウエイタのうしろ端部のねじ3本を外し、吸込本体用チャンバ(RAD-SC1)をねじ7本で取り付けます。
- 電気品基板上の静圧切換スイッチを“高圧”、設置場所切換スイッチを“上位置”に設定してください。
(詳しくは「スイッチの設定・リード線の接続」(P.28)を参照してください。)
- 塩ビチューブにアルミテープ大⑦を巻いてください。
「リード線の保護」(P.30)の項を参照してください。



室内機の据え付け

- 吊りボルトにナット、座金を取り付け、本体を持ち上げ吊り金具にかけます。
- 本体が水平になっているか、水準器で確認してください。
- 本体底面と天井面(下面)のすき間は58mmになるように固定してください。



吸込グリル用チャンバ (RAD-SGC1) の取り付け

吐出グリル用チャンバ (RAD-FGC1) の取り付け

吸込グリル (RAD-SG1) の取り付け

吐出グリル (RAD-FG1) の取り付け

表示パネルの取り付け (RAD-TK1に同梱)

フレキシブルダクト (RAD-DUC100、200) の取り付け

それぞれの別売部品に同梱されている取付説明書を参照してください。

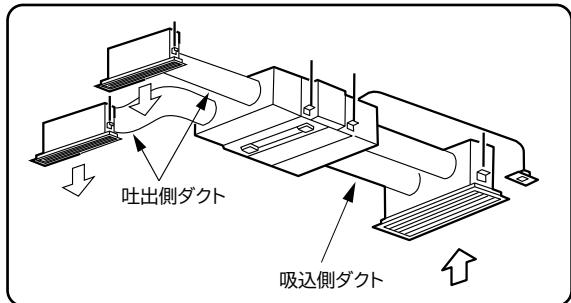
注意

- 室内機は必ず水平に据え付ける
室内機が傾いて据付けられると、水漏れの原因になります。
- 室内機及びチャンバの底面と天井下面との高さ寸法を上図のとおりにする
グリルと天井面にすき間が生じ、露が滴下する原因になります。

2. 吐出・吸込ダクトタイプで吐出口を分岐する場合

吐出口を2つに分岐して空調することができます。

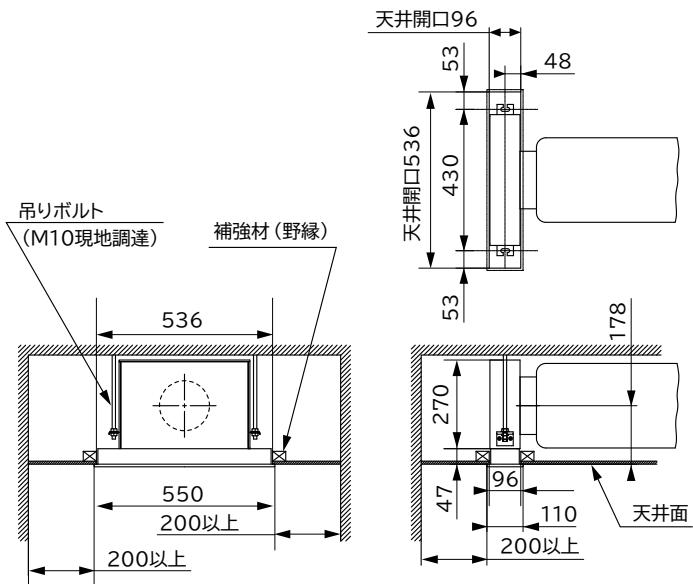
別売部品のRAD-SG1、RAD-SGC1、RAD-SC1、RAQ-FG（吐出分岐グリル1個入り）、RAQ-GD（吐出分岐グリル用チャンバ1個入り）、RAD-FC1、RAD-DUC100（1m用）または、RAD-DUC200（2m用）、RAD-TK1を準備してください。



注意
分岐ダクトの風量調節はできません

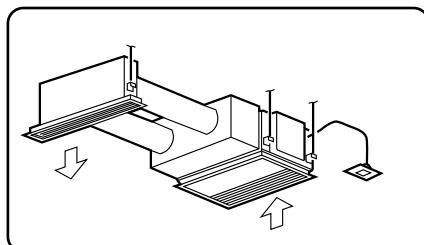
- 吐出口を分岐する場合の設置は「吐出・吸込ダクトタイプの据え付け」と同様ですので、P.13を参照してください。

吐出分岐グリル用チャンバ（RAQ-GD）の取り付け部



3. 吐出ダクトタイプ据え付けの場合

別売部品のRAD-SGL1、RAD-FG1、RAD-FGC1、RAD-FC1、RAD-DUC100（1m用）または、RAD-DUC200（2m用）、RAD-TK1を準備してください。

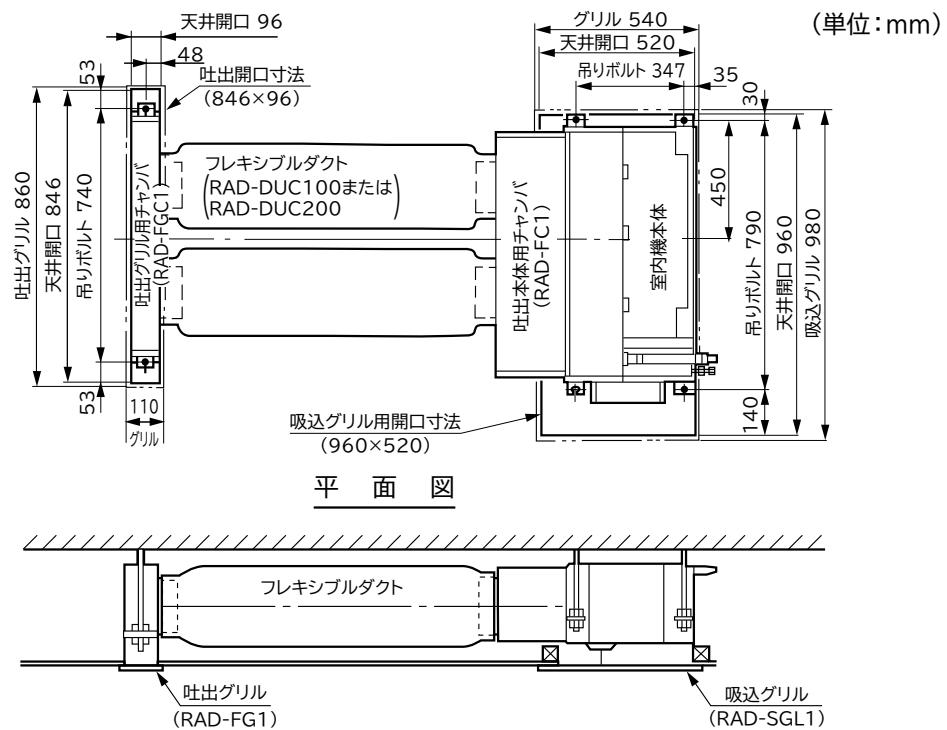


- ダクトの許容長さと曲がり

	許容ダクト長	ダクト曲がり部
吐出側ダクト	4m以下	90° 以下 1カ所

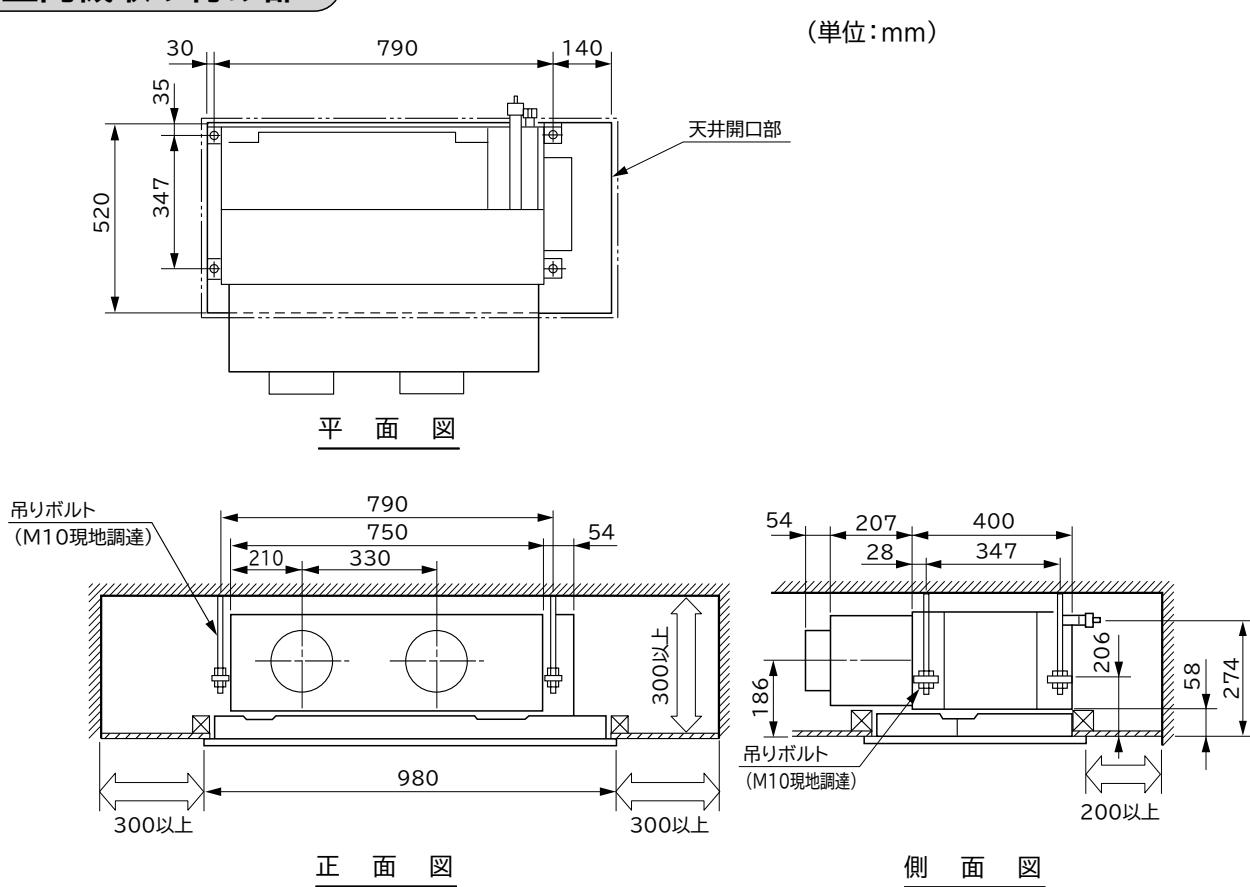
- 冷風や温風が部屋全体に行きわたるよう、吐出グリルの配置や向きを選定してください。
- 工事・点検およびサービスの時のユニット交換ができる出入口スペースを必ず設けてください。
- 本体下の天井裏面には、万一の水滴落下を考慮して防水処理を行ってください。
- 吸込グリル下方1m以内には、空気の流れの妨げとなる障害物を置かないでください。

据付構成図



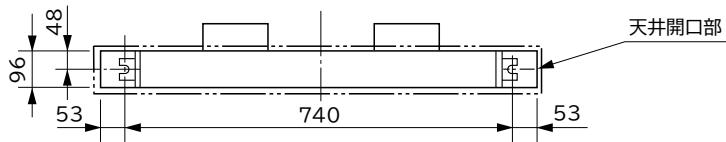
天井開口部と吊りボルト位置

室内機取り付け部

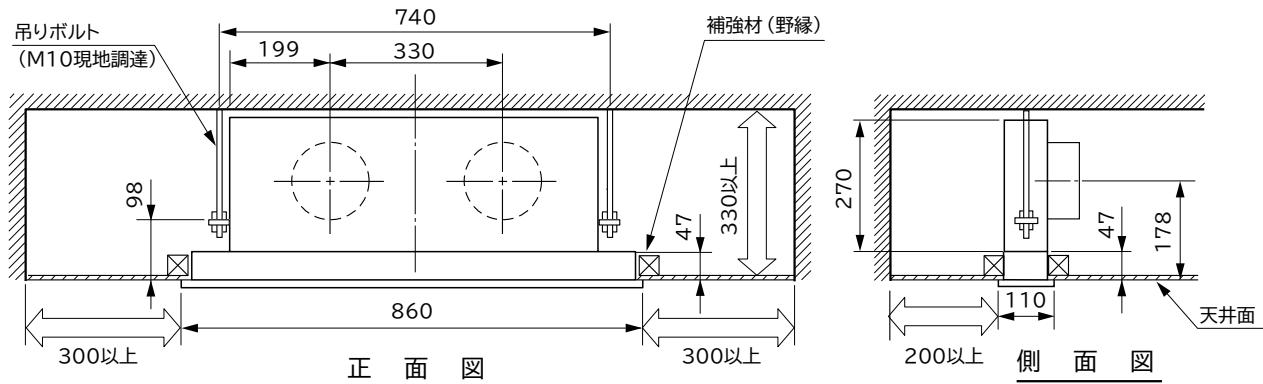


吐出グリル用チャンバ (RAD-FGC1) 取り付け部

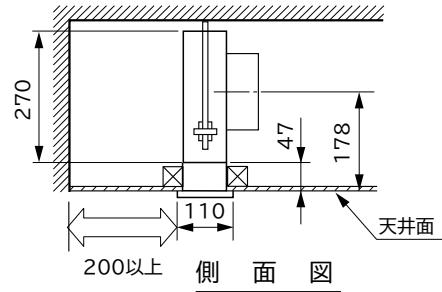
(単位:mm)



平面図



正面図



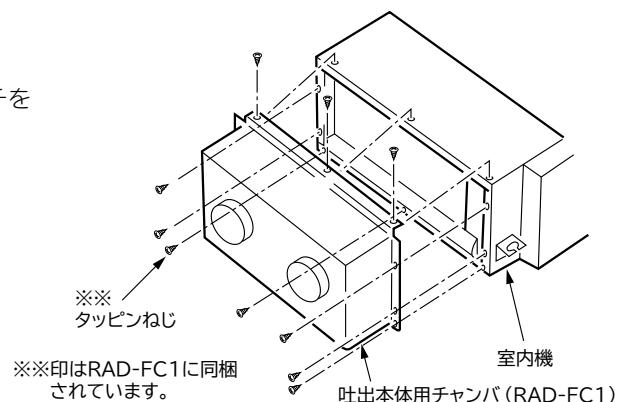
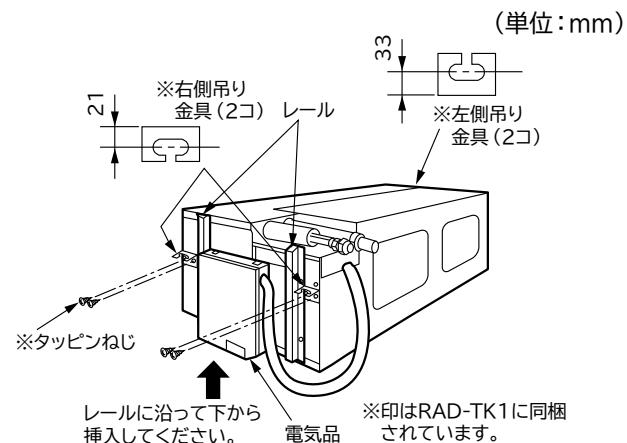
側面図

吊りボルトの設置

- 吐出グリル用チャンバの設置は「吐出・吸込ダクトタイプ据え付け」と同様ですのでP.15の項を参照してください。
- 本体の吊りボルトの長さは上図を参考にしてください。

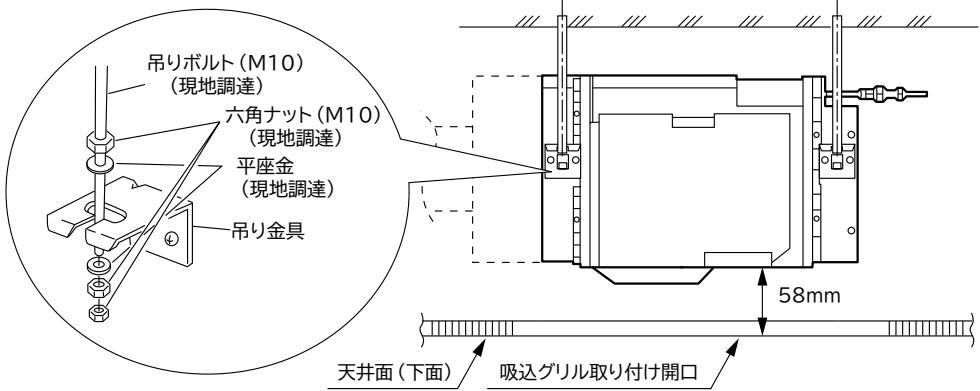
室内機据え付けの準備

- 本体底面に取り付けてある輸送用部品(板金)を取り外します。
- レールを固定しているねじ4本を取り外し、レールごと電気品を取り外します。
- 取り外した電気品を室内機側面(吹き出し口から見て右側)にレールごとねじ4本で固定します。
- 電気品をレール上面で固定しているねじ2本を取り外し、電気品を上方向に引き抜きます。
- 電気品を上下反転させ、レールに沿って下から挿入し、レール底面でねじ2カ所を固定します。
- 室内機側面に別売部品の吊り金具(RAD-TK1)左右各2個をタッピンねじ8本で固定します。
(左右の吊り金具寸法の一部が異なりますので右図を参考してください。)
- 別売部品の吐出本体用チャンバ(RAD-FC1)を室内機にタッピンねじ10本で固定します。
- 電気品基板上の静圧切換スイッチを“中圧”、設置場所切換スイッチを“上位置”に設定してください。(詳しくは「スイッチの設定・リード線の接続」(P.28)を参照してください。)
- 塩ビチューブにアルミテープ大⑦を巻いてください。
「リード線の保護」(P.30)の項を参照してください。



室内機の据え付け

- 吊りボルトにナット、座金を取り付け、本体を持ち上げ吊り金具にかけます。
- 本体が水平になっているか、水準器で確認してください。
- 本体底面と天井面(下面)のすき間は58mmになるように固定してください。



! 注意

- 室内機は必ず水平に据え付ける
室内機が傾いて据え付けられると、
水漏れの原因になります。
- 室内機及びチャンバの底面と天井下面との高さ寸法を上図のとおりにする
グリルと天井面にすき間が生じ、露が
滴下する原因になります。

吐出グリル用チャンバ (RAD-FGC1) の取り付け

吸込グリル (RAD-SGL1) の取り付け

吐出グリル (RAD-FG1) の取り付け

表示パネルの取り付け (RAD-TK1に同梱)

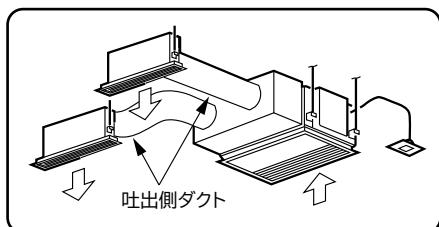
フレキシブルダクト (RAD-DUC100、200) の取り付け

それぞれの別売品に同梱されてい
る取付説明書を参照してください。

4. 吐出ダクトタイプで吐出口を分岐する場合

吐出口を2つに分岐して空調することができます。

別売部品のRAD-SGL1、RAQ-FG (吐出分岐グリル1個入り)、RAQ-GD (吐出分岐グリル用チャンバ1個入り)、RAD-FC1、RAD-DUC100 (1m用) または、RAD-DUC200 (2m用)、RAD-TK1を準備してください。



! 注意

分岐ダクトの風量調節はできません

- 吐出口を分岐する場合の設置は「吐出ダクトタイプの据え付け」と同様ですので、P.17を参照してください。

吐出分岐グリル用チャンバ (RAQ-GD) の取り付け部

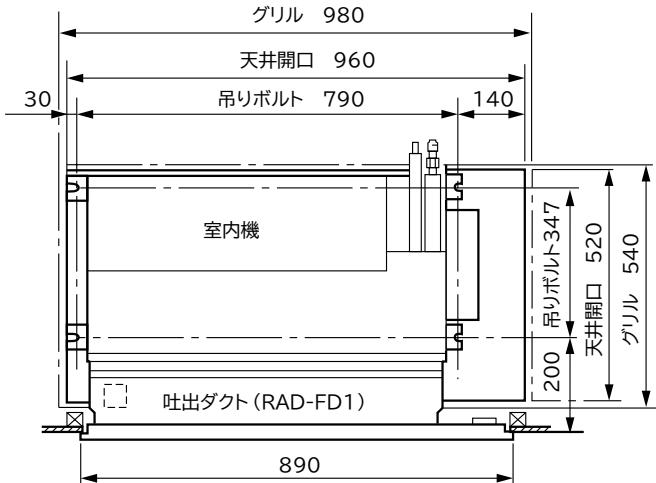
- P.17を参照してください

3-3 下がり天井形室内機の据え付け

別売部品のRAD-FGL1、RAD-FD1、RAD-SGL1を準備してください。

据付構成図

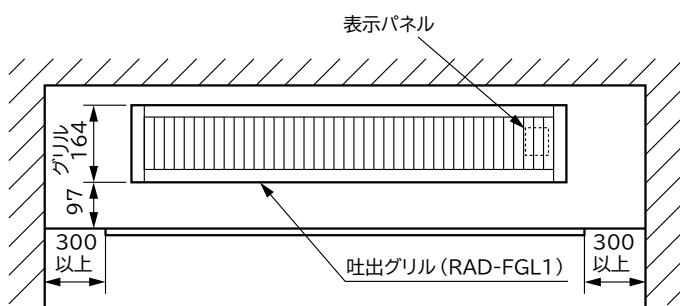
(単位:mm)



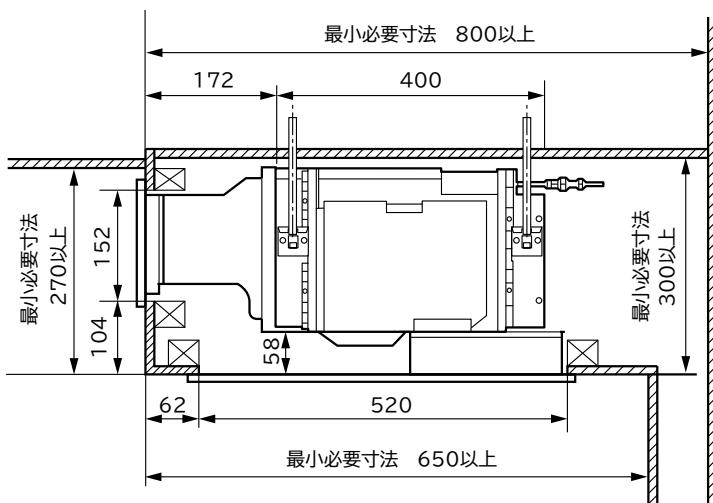
平面図

●冷風温風が部屋全体に行きわたるように本体の位置、吐出口の向きを選定してください。

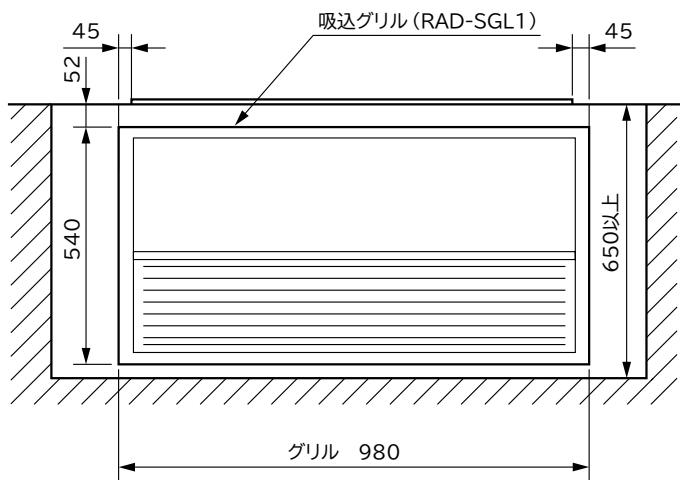
●吸込グリル下1m以内には、空気の流れの妨げになる障害物を置かないでください。



正面図

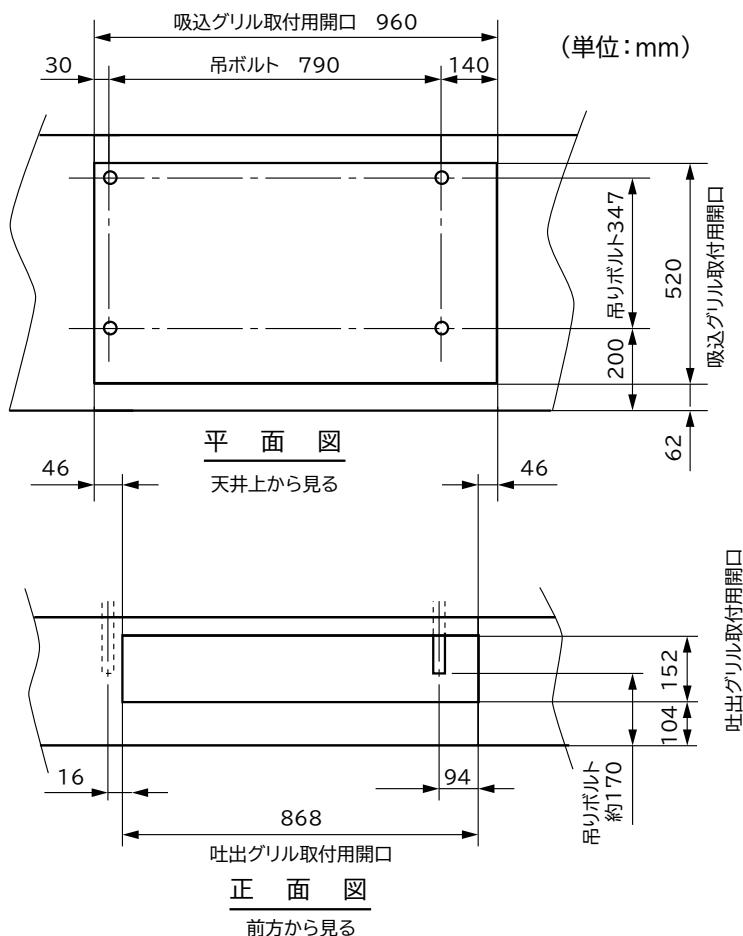


側面図

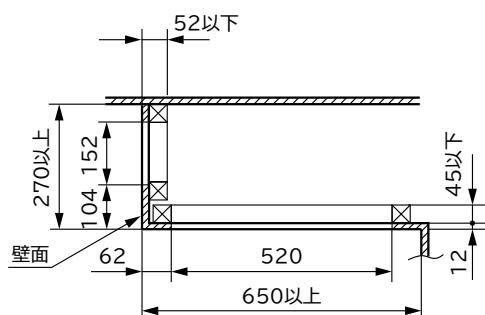


下面図

天井開口と吊りボルト位置



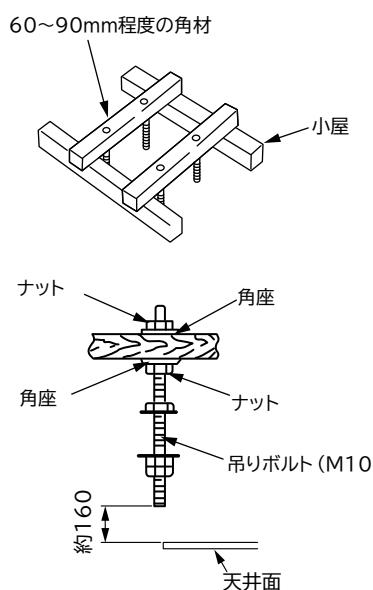
- 吊りボルトはM10を使用してください。
- 天井開口と吊りボルト位置関係は左図のようになります
- 天井面に960mm×520mm、壁面に868mm×152mmの開口をあけ、本体据え付けの前に配管、Fケーブルの取付位置までドレン配管・冷媒配管・Fケーブルを引いておいてください。
- 天井開口部、壁面開口部の仕上げについては、詳しく建築業者と打合せてください。



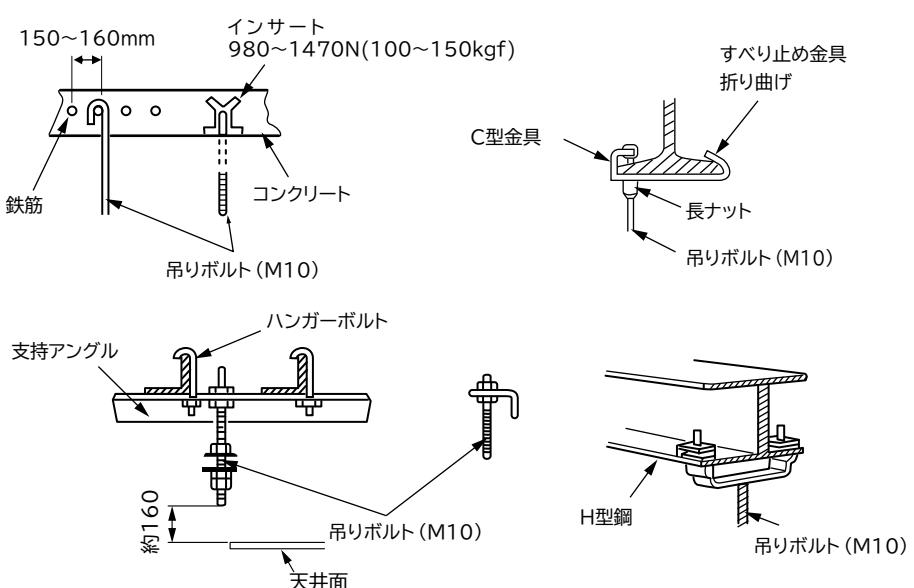
断面図

- 天井の水平度を正しく保ち、天井板の振動を防ぐために、必ず天井下地（骨組：野縁と野縁受け）の補強をしてください。
- 吊りボルト（M10）は現地調達してください。
- 吊りボルトの長さは下図を参考にしてください。

●木造の場合

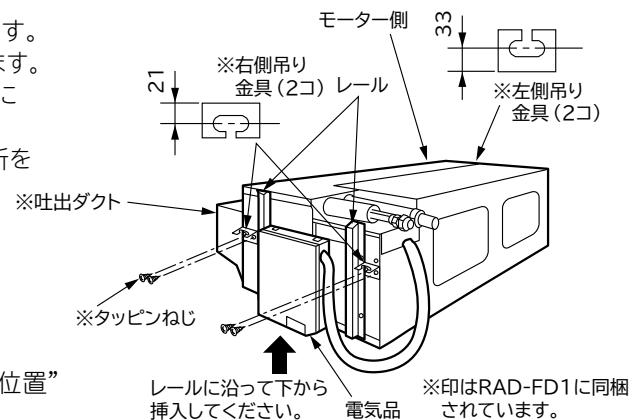


●鉄筋の場合



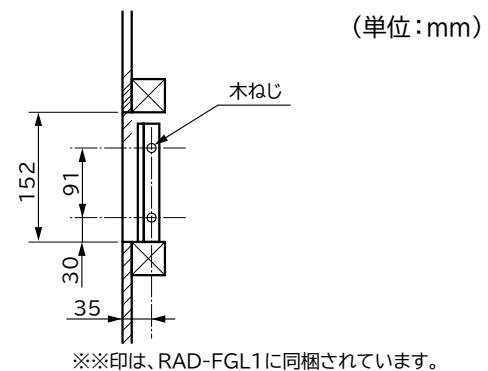
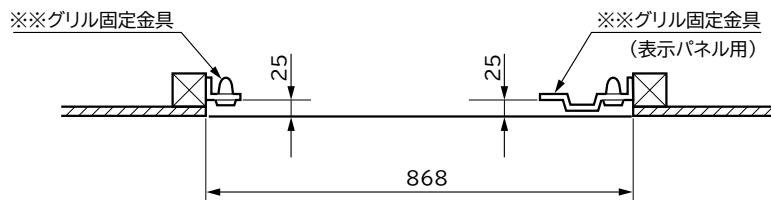
室内機据え付けの準備

- 本体底面に取り付けてある輸送用部品(板金)を取り外します。
- レールを固定しているねじ4本を取り外し、レールごと電気品を取り外します。
- 取り外した電気品を室内機側面(吹き出しが右側)にねじ4本で固定します。
- 電気品をレール上面で固定しているねじ2本を取り外し、電気品を上方向に引き抜きます。
- 電気品を上下反転させ、レールに沿って下から挿入し、レール底面でねじ2カ所を固定します。
- 室内機の吐出口に吐出ダクトを下向き(モーターのリード線が吹き出しが左側)に合わせて、タッピンねじ6本で取り付けます。
- 室内機側面に吊り金具4個をタッピンねじ8本を使用して取り付けます。
(左右の吊り金具寸法の一部が異なりますので右図を参考してください。)
- 電気品基板上の静圧切換スイッチを“標準”、設置場所切換スイッチを“上位置”に設定してください。(詳しくは「スイッチの設定・リード線の接続」(P.28)を参照してください。)
- 塩ビチューブにアルミテープ大⑦を巻いてください。
「リード線の保護」(P.30)の項を参照してください。



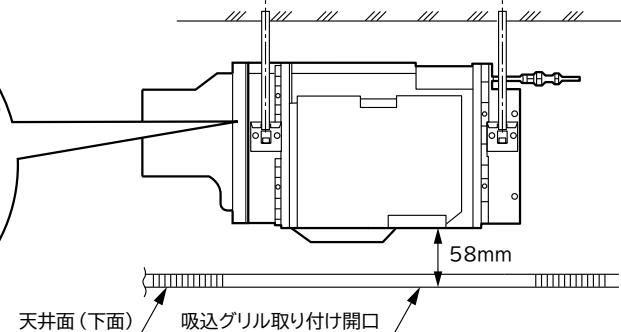
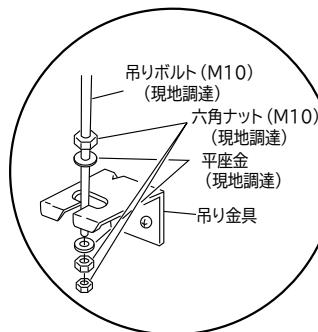
グリル固定金具の取り付け

- 下図のようにグリル固定金具を吐出口に取り付けます。



室内機の据え付け

- 吊りボルトにナット、座金を取り付け、本体を持ち上げ吊り金具にかけます。
- 本体が水平になっているか、水準器で確認してください。
- 本体底面と天井面(下面)のすき間は58mmになるように固定してください。



表示パネルの取り付け

- 右図のようにグリル固定金具(表示パネル用)に表示パネルのツメが確実にかかるように、表示パネルをはめ込んで取り付けます。

吐出グリルの取り付け

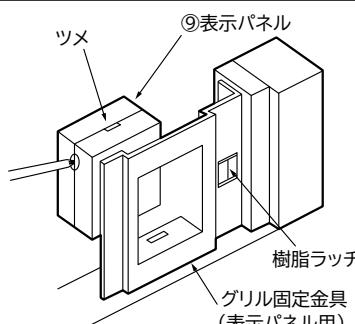
- グリルは、樹脂ラッチが確実にはまり込むことを確認して取り付けます。

吸込グリルの取り付け

- グリルに同梱されている取付説明書を参照してください。
以降は、「共通の据付け」(P.24)の項を参照してください。

注意

- 室内機は必ず水平に据え付ける
室内機が傾いて据え付けられると、水漏れの原因になります。
- 室内機底面と天井下面との高さ寸法を上図のとおりにする
グリルと天井面にすき間が生じ、露が滴下する原因になります。



共通の据え付け

配管の接続・エアページ

1 配管の切断とフレア加工

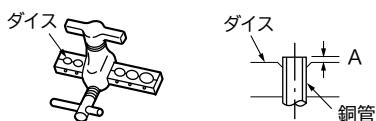
- パイプカッターで切斷し、バリ取りを行います。



△ 注意

- バリ取りをする
バリ取りをしないとガス漏れの原因になります。
- 切粉が銅管内に入らないように、
バリ取り時には銅管を下向きにする

- フレアナット挿入後、フレア加工をしてください。



※R410A用専用工具の使用を推奨します。

外径(Φ)	A(mm) [リジット]	
	R410A用専用工具の場合	R22用専用工具の場合
6.35(1/4インチ)	0~0.5	1.0
9.52(3/8インチ)	0~0.5	1.0

- 冷媒配管** ●使用する冷媒配管は、次のことを守ってください。

	Φ6.35(1/4インチ)	Φ9.52(3/8インチ)
肉厚	0.8mm	
材料および規格	リン脱酸銅 C1220T JISH3300 (付着油量:40mg/10m以下)	
断熱材	●耐熱発泡ポリエチレン 比重0.045 肉厚8mm以上	●接続配管は1本毎に各々断熱してください。

薄肉管(肉厚0.7mmなど)は、使用しないでください。

△ 注意

- 室内サイクル(冷媒配管)にヘリウムガスが封入してある室内機配管のフレアナットを外す場合は、細径側パイプを先に外す太径側から外すとシールキャップが飛ぶことがあります。
- 接続部から水分が入らない様にする
- フレアナットは必ずトルクレンチを使用し、指定の締め付けトルクで締め付けるフレアナットを締め付け過ぎると長期経過後、フレアナットが割れて冷媒漏れの原因になります。
- 冷凍機油はフレアの外面には塗らない
フレア外面に冷凍機油を塗ると、フレアナットの締め付け過ぎとなり、フレアナットが割れたり、フレア部が破壊されて冷媒漏れの原因になります。

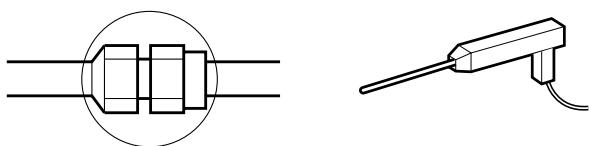
3 エアページおよびガス漏れ検査

エアページ

- 全体の配管接続が終了したらエアページを行ってください。
詳しくは、室外機に付属の据付説明書をご覧ください。

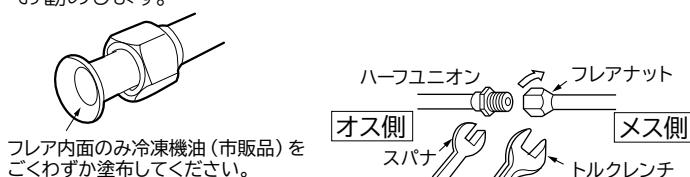
ガス漏れ検査

- 右図の部分をガス漏れ検知器を使用してフレアナット接続部などから冷媒漏れないことを確認します。
漏れるある場合は、増締めするなどして、処置してください。(R410A用検知器をご使用ください)



2 配管の接続

- 室内機の配管からフレアナットを外します。この時ハーフユニオン(オス側)をスパナで固定しながらフレアナット(メス側)をスパナで外します。
- 曲げ加工は配管をつぶさないようにしてください。
- 中心を合わせフレアナットを手で十分締め付けた後、トルクレンチ(スパナ)で確実に締め付けます。
- 接続部(フレアの内面)に冷凍機油(市販品)を塗ることをお勧めします。



※締め付けトルクは下表に従ってください。

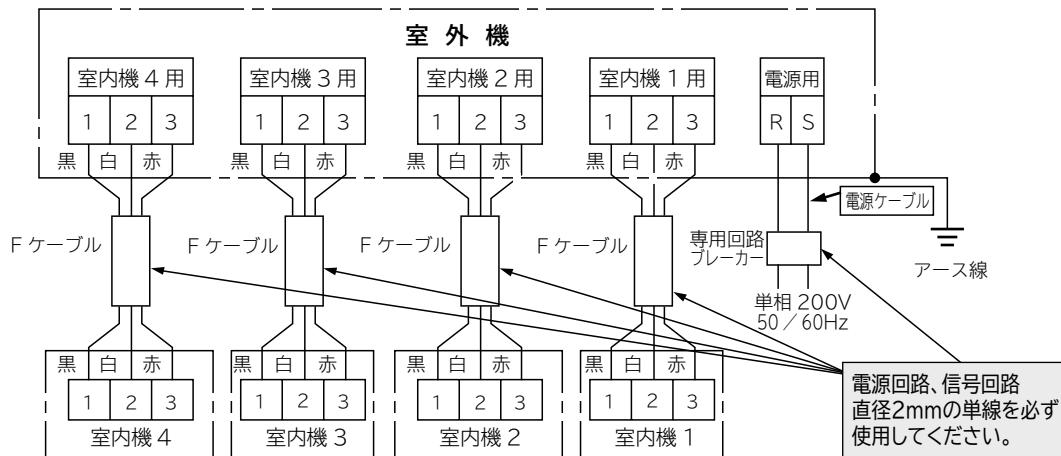
	パイプ外径(Φ)	トルクN·m {kgf·cm}
細径側	6.35(1/4インチ)	13.7~18.6 {140~190}
太径側	9.52(3/8インチ)	34.3~44.1 {350~450}

Fケーブルの接続

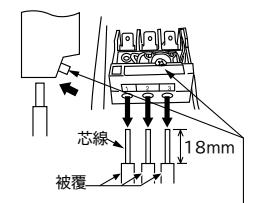
Fケーブルの接続方法

●電源は単相200Vを使用してください。

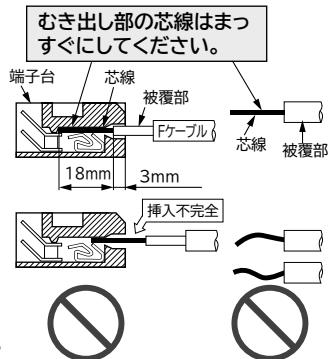
- 同一室内機の冷媒配管とFケーブルは、室外機サービスバルブの室内機名（例：室内機1）と端子台の室内機名を合わせて接続してください。



※上の図は室外機が4室マルチの場合の接続を表しています。詳しくは室外機の据付説明書を参照してください。



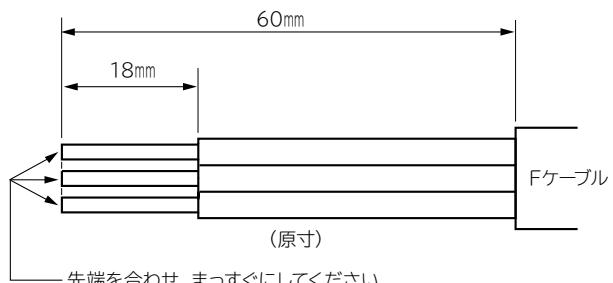
Fケーブルを外す時はこの部分
を矢印の方向に押しながらFケ
ーブルを引いてください。



電源回路、信号回路
直径2mmの単線を必ず
使用してください。

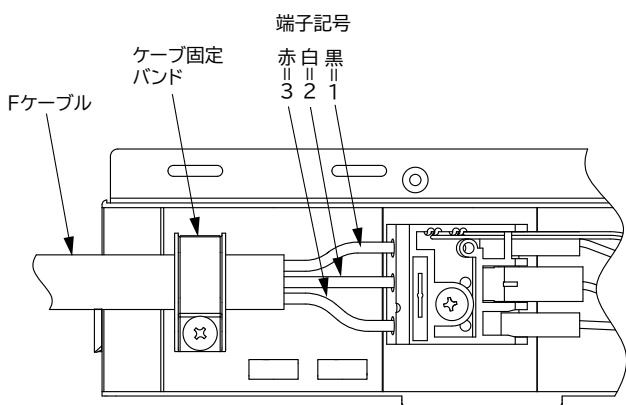
警告

- Fケーブルは、必ず直径2mmの単線を使用する
より線を使用しますと、故障や発熱・火災の原因になります。
- Fケーブルを途中で接続しない
接続部が過熱し、火災・感電の原因になります。
- Fケーブルの芯線は18mm（最小でも17mm、最大でも20mm）
むき出し、芯線がかくれるまで確実に押し込み、各々の線を引っ張って抜けないことを確認する
挿入が不十分であったり、むき出し寸法が17mm以下ですと接触不足により、故障や発熱・火災の原因になります。
- Fケーブルの芯線は先端を合わせ、まっすぐにする
- 分岐回路はエアコン専用の回路にする
- Fケーブルの取付工事は「電気設備に関する技術基準」に従って行う



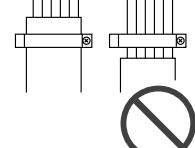
室内機への接続方法

- Fケーブルを接続するときは、電気品フタを外して行います。
- 端子台にFケーブルを接続し、必ずケーブル固定バンドで固定してください。



警告

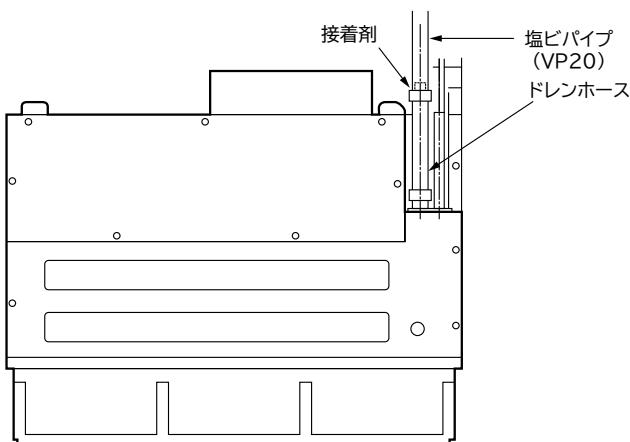
- Fケーブルはサービス時の作業性を考慮して余裕を持たせて、必ずケーブル固定バンドで止める
- ケーブル固定バンドで止めるときは、Fケーブルの外側の被覆部の上から確実に止め、接続部に外力が加わらないようにする
Fケーブルの接続部に外力が加わると、発熱や火災などの原因になります。
- 取り外した端子台カバーは工事后、必ず取り付ける



ドレン配管の接続

ドレン配管

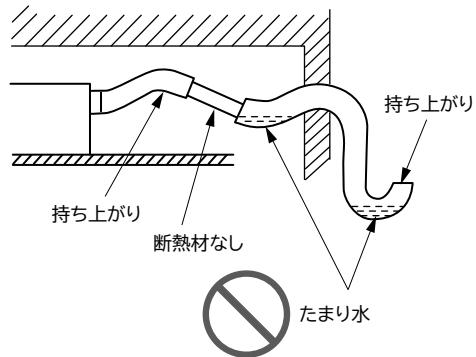
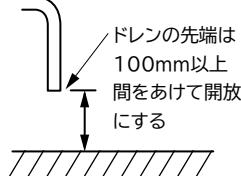
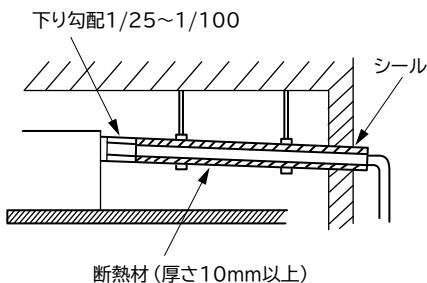
- ドレン配管は、市販の硬質塩ビパイプVP20（外径26mm）を使用してください。
- 室内機のドレンホースと硬質塩ビパイプ（VP20）の接続部は漏れのないように塩ビ系接着剤で確実に接着してください。
- 屋内にあるドレン配管には、必ず市販の断熱材（厚さ10mm以上）を巻いて断熱してください。
- ドレン配管は、ドレン水が途中で溜らずにスムーズに流れるよう、下り勾配（1/25～1/100）とし、途中山越えやトラップを作らないように吊り金具などで固定してください。
- ドレン配管の外壁との貫通部は必ずシールしてください。



注意

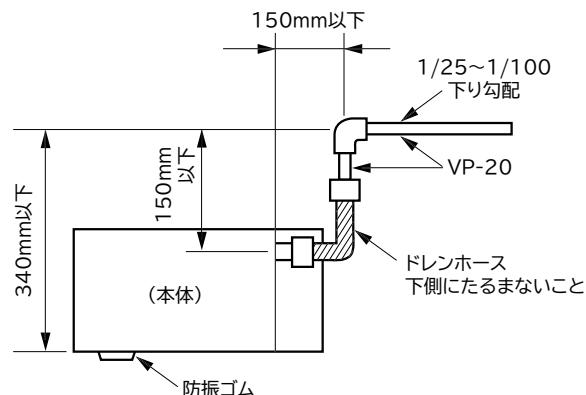
- ドレンホースと硬質塩ビパイプの接着は確実に行う
接着が不十分な場合、水漏れの原因となります。
- ドレン工事は、確実に排水できるように配管し、必ず排水の確認を行う
確認を怠ると、水たれとなることがあります。
- ドレンホースは床面より100mm以上高い位置で切断する
エアロックによる水漏れや異物の詰まり等の原因となることがあります。
- 下図のような不具合がないことを確認する
ドレン詰まりをおこし、水たれとなります。
- ドレン配管は1/25～1/100の勾配をとること
- 浄化槽等、腐食性ガス（硫黄・アンモニア等）が発生する場所に
ドレンホースを導かない
腐食性ガスがドレンホースから室内機に逆流し、銅配管を腐食させたり、室内で異臭の原因になることがあります。
- 室内機のドレン配管は、室外機のバルブカバーへ導かない
使用条件により、配管バルブカバーより水たれの恐れがあります

ドレンアップしない場合



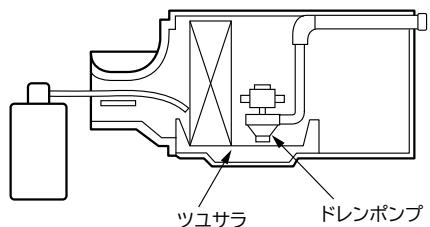
このような据え付けは
しないでください。

ドレンアップする場合



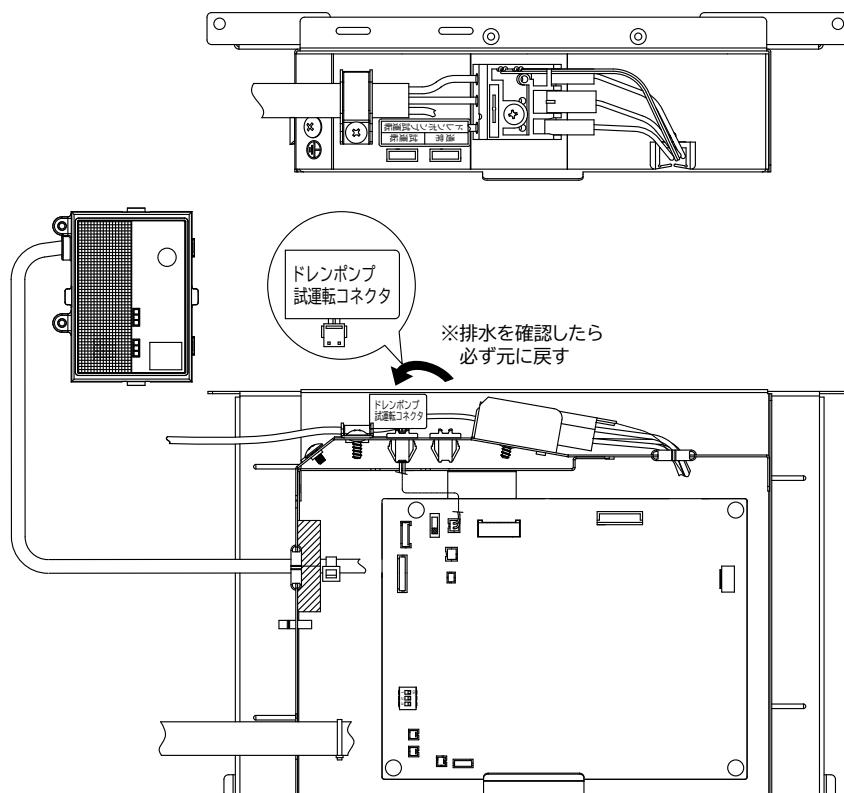
排水および水漏れ確認

- 室内機を据え付け、Fケーブルを接続してから水を流してドレンポンプの試運転を行い、確実に排水されることを確認してください。
(確認を怠ると水漏れの恐れがあります。)
- 室内機の吐出グリルを取り外し、右図のようにして室内機のツユサラに注水します。
〔注水するときは、水差し(現地調達)などを使用してください。〕
- 電源を入れる。
- 端子台のフタを外し、「通常」に接続されているドレンポンプ試運転コネクタを「試運転」に接続します。
- 排水を確認したら、必ずドレンポンプ試運転コネクタを「通常」に戻してください。
※「通常」に戻し忘れると、タイマーランプ7回点滅となりリモコンを受け付けません。



!**注意**

- 排水確認後は、ドレンポンプ試運転コネクタを「通常」に戻す
ドレンポンプ試運転コネクタを「通常」に戻し忘れると、ドレンポンプが故障する原因になります。

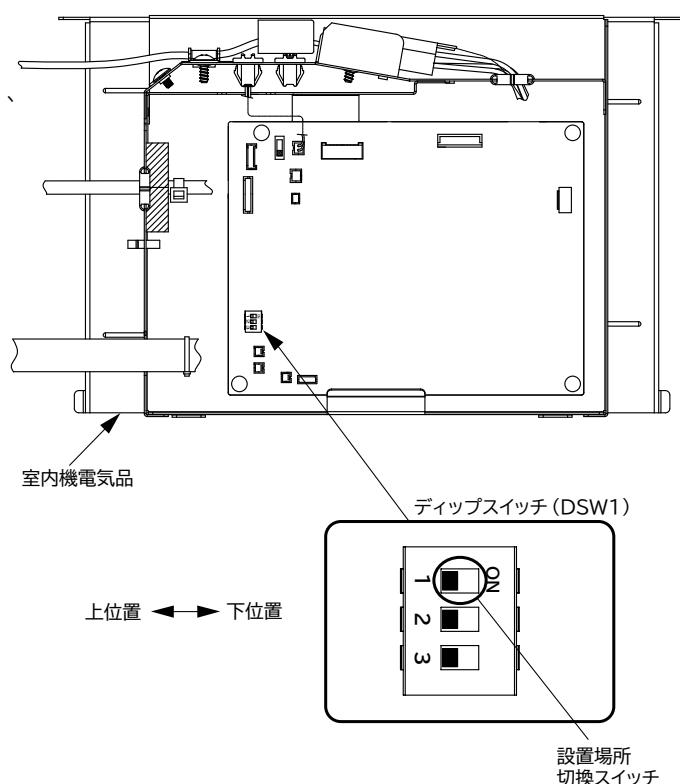


室内機電気品

スイッチの設定・リード線の接続

1 設置場所切換スイッチ

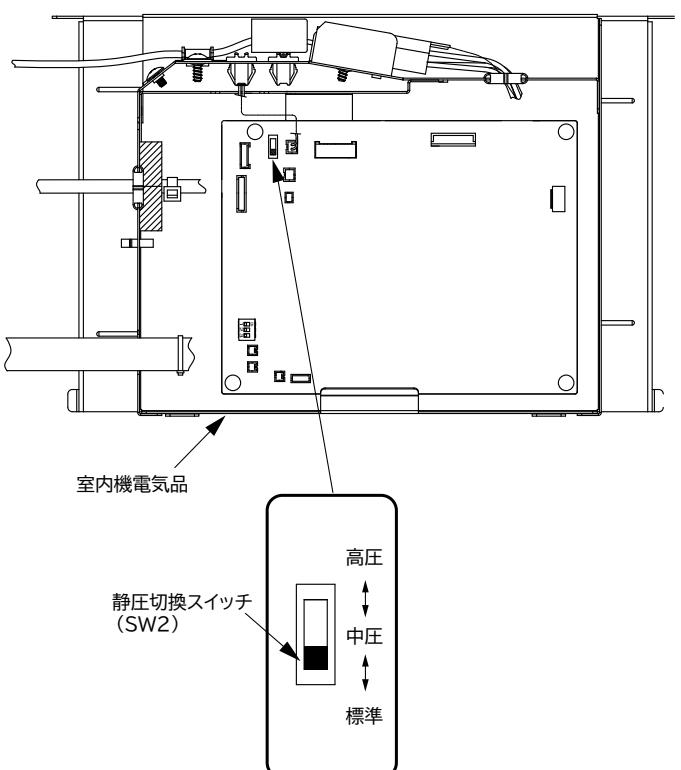
- 据付場所に応じて設置場所切換スイッチを設定してください。
右図のディップスイッチ (DSW1) の1番を操作します。
- 押入れ上や下り天井、天井ダクト形の場合は“上位置”(OFF)、
押入れ下の場合は“下位置”(ON)に設定します。
- 設置場所切換スイッチが正しく設定されていない
場合、吐出ダクトの上下風向板が正しく動作しま
せん。(出荷時は“上位置”(OFF)に設定されています。)



2 静圧切換スイッチ

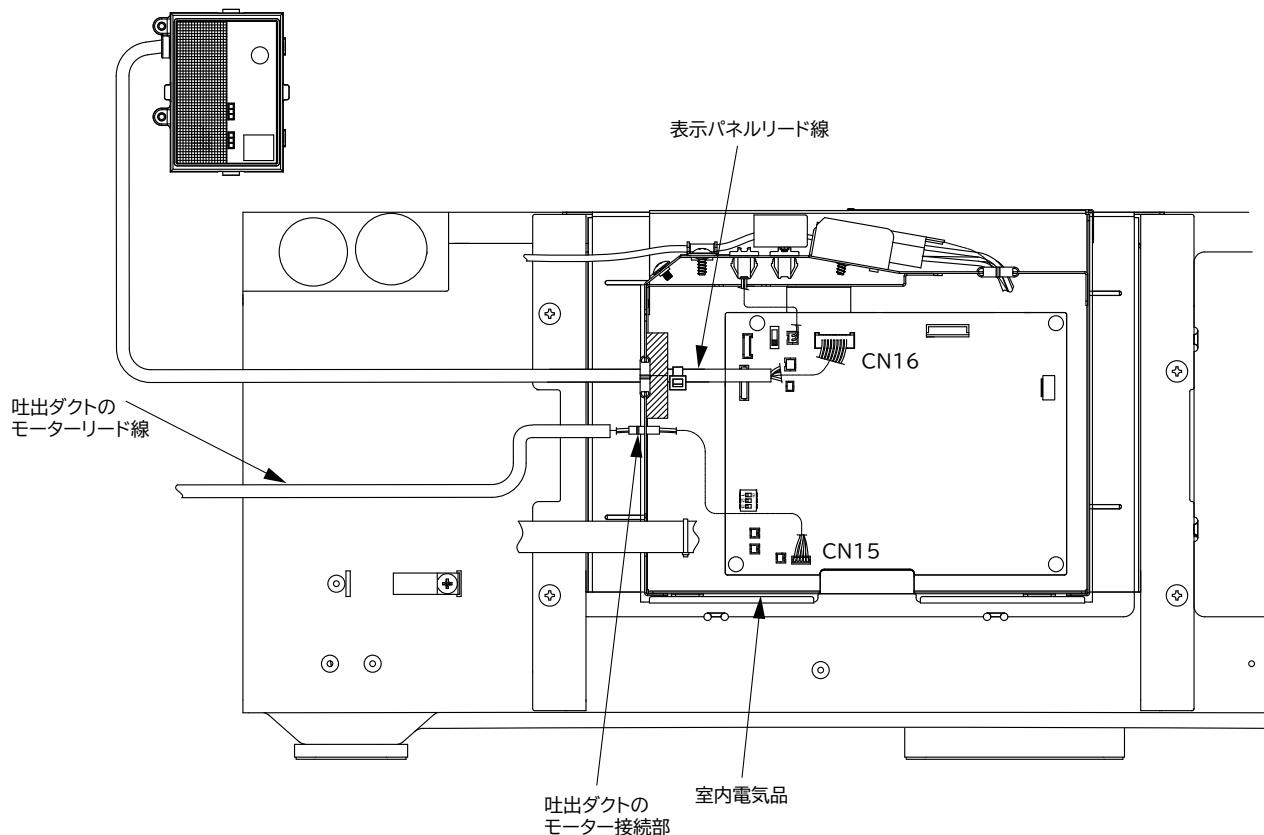
- 下表に従って静圧切換スイッチ (SW2) を設定してください。
- 静圧切換スイッチが正しく設定されていない場合、
冷房、暖房能力が低下する原因になります。
(出荷時は“標準”に設定されています。)

静圧切換	据付状態
高圧	吐出・吸込ダクトタイプ
中圧	吐出ダクトタイプ / 室内機収納部を チャンバー状にできない場合
標準	壁用形（一間幅、半間幅）/下がり天井形



3 吐出ダクトのリード線の接続

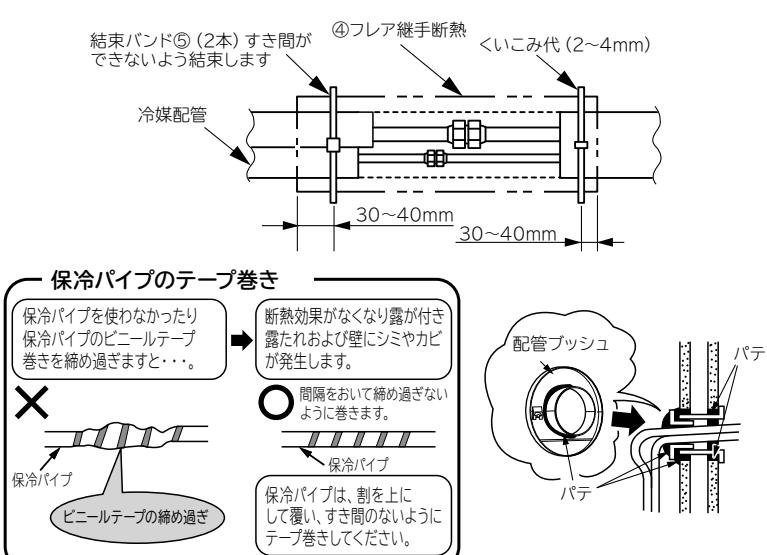
- 吐出ダクトのモーターコネクタを電気品箱側面のコネクタCN15に接続します。



仕上げ

1 配管の断熱と仕上げ

- 配管の接続部は付属のフレア継手断熱④を巻き、結束バンド⑤で固定してください。
- フレア継手断熱④は、割りを上側にし、取り付けてください。
- 配管・Fケーブル等をテープ巻きし、固定します。
- テープは締め過ぎないように巻きます。すき間があったり締め過ぎたりすると露たれの原因となります。
- ドレン配管や冷媒配管が押入れや廊下など室内を通る場合は、露付き防止のため保冷パイプ（サービスパーツ品RAP-284AX2 020）で覆い断熱の強化をしてください。
- 壁穴部と、ブッシュ・配管のすき間を〔配管カバー（市販品）を使用した場合も〕パテにて完全にシールしてください。シールが完全でないと、壁内や室外の高湿空気が浸入し、露たれの原因になります。また、壁内や室外の臭いが室内に浸入する原因になります。



仕上げ

2 アースと漏電遮断器

このエアコンは必ずアース工事をしてください。

アース工事は「電気設備に関する技術基準」に従って実施してください。万一の感電事故を防止するほかに、製品に触れたときに感じる静電気の障害や、リモコン操作時にテレビ・ラジオに入る雑音を防ぐ効果もあります。

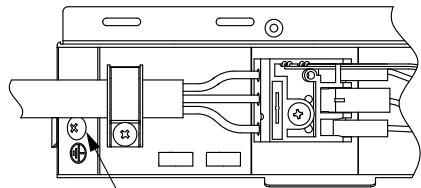
接地の基準

接地の基準はエアコンの電源電圧および設置場所により異なります。

下表により接地工事を行ってください。

電源の条件	エアコンの種類	エアコン設置場所	水気のある場所に設置する場合	湿気のある場所に設置する場合	乾燥した場所に設置する場合
対地電圧150V以下の場合	100Vの機種(含単相3線式200Vの機種)		D種接地工事が必要です。(注)	D種接地工事は法的には除外されていますが安全のため接地工事をしてください。	
対地電圧150Vを越える場合	3相200Vの機種(含単相2線式200Vの機種)			漏電遮断器を取り付けさらにD種接地工事が必要です。(注)	

室内機にアースを付ける場合



アース端子
アースを接続するときは
端子台カバーを
外して行います。

警告

●室外機または室内機のいずれか1台から必ずアースを行う

アース端子は室外機の端子台近傍に付いています。

なお、右図のように室内機にもアースを接続できるようになっていますが、なるべく室外機でアースを行ってください。

●アース線は、次のようなところに接続しない

①ガス管…引火や爆発のおそれがあります。

②避雷針・電話のアース線…落雷のとき、大きな電流が流れるおそれがあります。

③水道管…塩ビ管ではアースの役目を果たしません。また、金属管では電蝕のおそれがあります。

●お客様にご説明の上、アース(接地)を行う

●室内機からアース(接地)を行う場合は、直径1.6mmの単線(軟銅線)を使用し、確実に固定する

D種接地工事について(注)

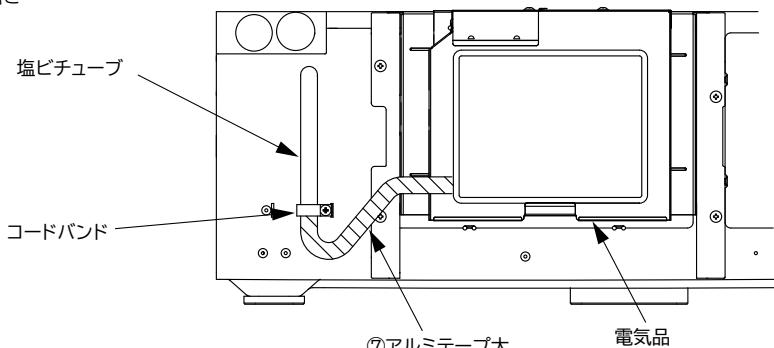
●接地工事は電気工事士の方が行ってください。

●接地抵抗は100Ω以下であることを確認してください。

ただし漏電遮断器を取り付けた場合は500Ω以下であることを確認してください。

3 リード線の保護

●電気品から室内機(コードバンド)までの塩ビチューブにアルミテープ大⑦を巻いてください。

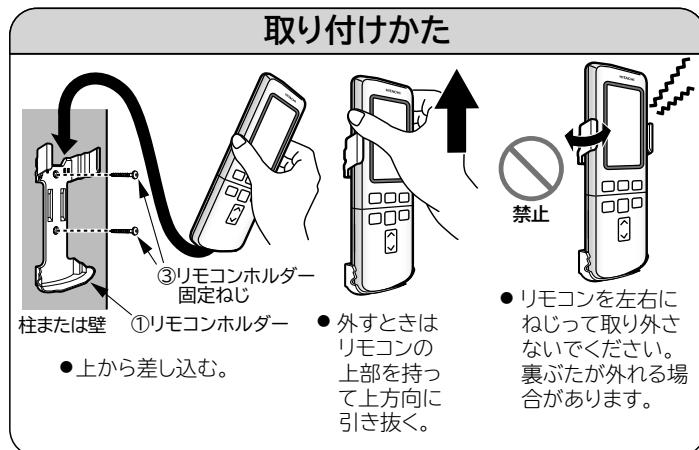


4 リモコンの設定と固定

ご注意

- リモコンホルダーは事前に取付場所から「運転」と「停止」ができる事を確認してから取り付けてください。
- 吹き抜けなどにより、室内機上部の天井が高い場合やリモコンホルダーの取付場所によっては、取り付けたままで「運転」や「停止」ができないことがあります。

- リモコンはリモコンホルダー①で壁や柱に固定することができます。
- リモコンを固定したままエアコンを操作するときは、信号がエアコンに確実に受信されることを確認してください。
なお、蛍光灯により影響され信号が受信されなくなることがありますので、昼間でも点灯して確認してください。
- 電子点灯形の照明器具がある場合は、受信距離が短くなることがあります。場合によっては信号を受け付けないことがあります。



アドレス切換スイッチについて

2台の室内機同じ部屋に据付けたときなど、リモコンの混信を防ぎたいときに使用します。

アドレス切換スイッチは、リモコンの電池ケースふたを外したところにあります。(出荷時は「A」側に設定されています。)

●アドレス設定(混信防止)の方法

2台の室内機のうち、1台について設定を行います。

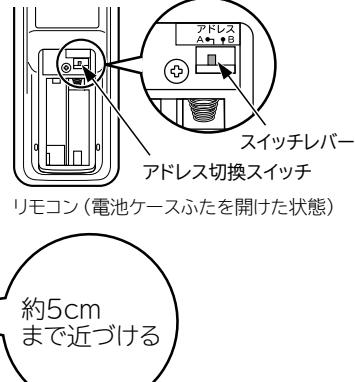
①リモコンに乾電池を入れ、リセットスイッチを押します。
(取扱説明書P.14を参照してください。)

②下図のようにリモコンを組み合わせたい室内機の受信部に近づけた状態で、アドレス切換スイッチのスイッチレバーを「B」側に動かします。

この時、他方の室内機が受信しないようにしてください。

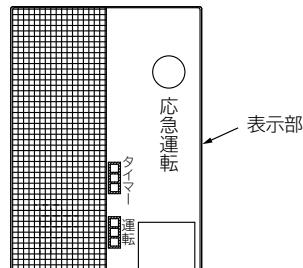
③「ピッ」という受信音がして、設定が終了します。

●アドレス設定後、リモコン操作をして動作することを確認してください。 動作しない場合は、スイッチレバーを「A」側に戻し、再度設定操作を行ってください。



5 保護シートの取り外し

- 表示部の保護シートを取り外してください



6 試運転およびチェック

電源投入前に室内機用端子台黑白間に短絡がないことを確認してください

短絡した状態で電源を入れると室外基板のヒューズが溶断しますのでご注意ください。室外機の処置方法については室外機の据付説明書をごらんください。

試運転

- 試運転は必ず1台ずつ運転し、正常に運転することを確認してください。
冷媒配管とFケーブルの接続違いを発見しやすくするため、できるだけ冷房運転で1台ずつ試運転してください。設定温度は、冷房の場合16°C、暖房の場合32°Cに合わせてください。

- 取扱説明書で「お客様」に操作の説明をしてください。

据え付けチェック

- P.32の右下の「ルームエアコン据付点検カード」によりチェックします。

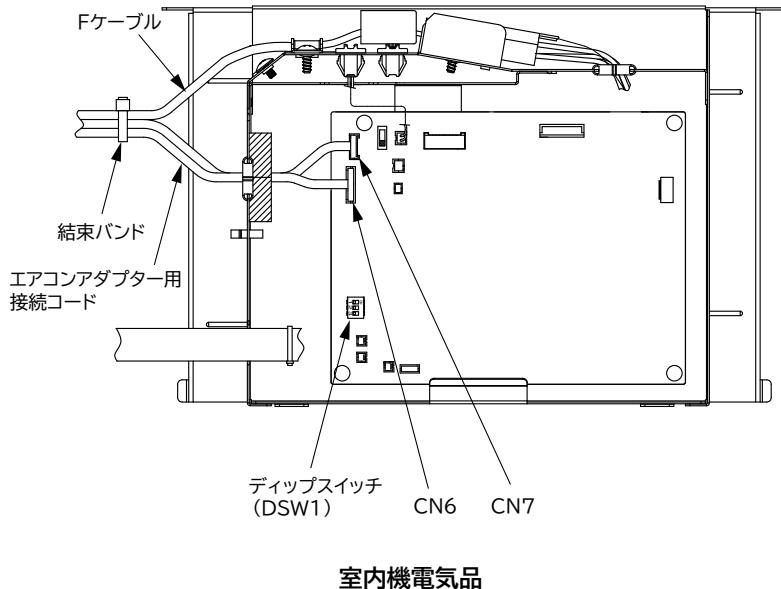
! 注意

- サービスバルブのスピンドルを閉めた状態で5分以上運転しない
故障の原因になります。
- 冷房・除湿運転時、窓や戸を開放した状態(部屋の湿度が80%を超えたまま)などで長時間運転しない露が落ちて家財を濡らす原因となることがあります。
- 新築や改築時にお部屋の乾燥に使用しない
エアコンの機能や性能の低下及び上下風向板に露が付き、露が落ちて家財を濡らす原因になることがあります。

HAシステム・H-LINK・カードキーと接続するとき

- HAシステムと接続するには別売のHA接続コード [SP-HAC1] が必要です。
- H-LINKと接続するには、別売のRACアダプターが必要です。
- エアコン側の運転の種類を「自動」に設定しているとき、H-LINKのコントローラー側で設定した温度表示が自動的に変わることがあります。これは、エアコン側で自動的に設定した温度をコントローラー側に送信して表示するもので、故障ではありません。
- カードキーと接続するには別売のカードキー接続コード [SP-CKC1] が必要です。

- 電気品フタを外し、配線を接続します。
〔HAシステム・カードキーはCN6、RACアダプターはCN7に接続してください。〕
- ディップスイッチの設定は、下表を参照してください。
- 下図のように、HA接続コードをはわせ、Fケーブルに結束バンドで縛ります。
- 詳しくはそれぞれ付属の取扱説明書、またはRACアダプター付属の据付点検要領書とあわせて、お読みください。



ディップスイッチ(DSW1)の設定

- 設置場所選択およびカードキー機能選択はディップスイッチで行います。
- ディップスイッチは電源が切れている状態で設定してください。
- 誤動作の原因となりますので下記以外の設定では使用しないで下さい。

		設置場所	
		壁上設置	壁下設置
通常		※工場出荷時 (全てOFF)	(1のみON)
カードキー機能選択 (a接点)		(2のみON)	(1と2ON)
カードキー機能選択 (b接点)		(2と3ON)	(全てON)

お客様氏名 (電話番号)	様 ()	
お客様住所		
機種名	製造番号	
据付年月日	据付担当者	

ルームエアコン据付点検カード

(点検済みの項目の□の中に✓印を記入してください。)

- 配管はR410A用を使用しましたか
- 真空引きを、行いましたか
- 輸送部品は、全てはずしましたか
- 配管接続部のガス漏れはありませんか
- 接続ケーブルの接続は正しく確実ですか
- 除湿水は漏れずに、よく排水しますか また、露受皿に除湿水がたまらないような傾斜で据え付けられていますか
- 配管接続部の断熱はしましたか
- 据付強度はじゅうぶんですか
- 吸込・吐出グリルは確実に取り付けてあり、落下の危険はありませんか
- 電源は、専用回路に接続しましたか
- アースは正しくしてありますか
- 壁穴が壁を貫通する場合、保護パイプをつけましたか
- 壁穴部のシールは確実にしましたか 特に、埋込配管で大きな壁穴のとき、シールを確実にしましたか
- 試運転をして、異常はありませんか
- 冷気または暖気が、吐出口からでましたか
- 异常音は、出ていませんでしたか
- 取扱説明書の表紙に記載された型式名のうちの、据え付けた型式名の前に○印を付けましたか (取扱説明書が2機種以上の共用になっている場合)
- お客様に正しい取り扱い方と、運転のしかたを説明しましたか
- リモコンの設定はしましたか

サービス記録

年月日	サービス内容	サービス担当者

キリトリ線から切りはなし、据付時の点検、サービスの記録として、お店で保管、ご使用ください。